

令和六年度 平和文集

「いま、語り継ぎたいこと」

戦争と平和

東大和市

く恒久平和を願ってく

「いま、語り継ぎたいこと」

く戦争と平和く

発刊にあたって

この平和文集は、東大和市民の皆様のご戦争体験を後世に伝え、平和の大切さを広く市民に訴えることを目的として、平成十五年度から、発行しているものです。

今年も、戦争を体験した市民の皆様のご思いをお寄せいただき、また、多くの児童・生徒の皆様より、戦争のない平和な世界への願いを届けていただきました。

東大和市では、平成二年十月に「東大和市平和都市宣言」を行い、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界

の実現にむけて努力することを誓いました。

また、昨年度からは、東京都の多摩地域二十六市が一体となって平和文化の振興に向けた取組を始めたところです。

ここ近年の世界情勢の変化から、人々の平和を願う気持ちはより一層深く、大きくなっております。この平和文集が市民の皆様の心に届き、恒久平和の実現の一助となることを願っております。

本文集の発刊にあたり、原稿をお寄せいただきました皆様並びにご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和六年八月

東大和市長 和地 仁美

目次

戦争体験記

信州の山おくで	……………	三浦 成子	1
戦争実態のひとつ	……………	渡辺 晃	3

小学生の作文

戦争や平和について聞いたこと、知ったこと、思うこと	……………		5
---------------------------	-------	--	---

中学生の作文

戦争や平和について聞いたこと、知ったこと、思うこと	……………		17
---------------------------	-------	--	----

東大和市平和都市宣言	……………		180
------------	-------	--	-----

東大和市戦争体験映像記録

「沈黙の証言者」→私たちのまちは戦場だった→……………

182

平和文集について

※氏名の五十音順で掲載しています。

※編集に当たっては、基本的に原文のままとしています。

※二人の方から戦争体験記を、五人の小学生、七十人の中学生から作文をお寄せいただきました。

戦争体験記

第二次世界大戦（太平洋戦争）の戦争体験記

信州の山おくだ

三浦 成子（九十歳）

第二次世界大戦の終戦時、私は小学六年生、昭和二十年七月、父は体調をくずし下痢と熱が出た。何の病気か解らなかった。ひよろひよろした体で竹竿に雑巾を括りつけ、蔵の壁に墨を塗った。それからすぐ八月に入り、ラジオから「大事な報道がある」と聴き、日本の敗戦を知った。

「勝つまでは」と頑張らされてきたことは何のためだったのか、急に脱力感に襲われた。私と祖母は赤痢にかかり、二学期は一日も登校できなかった。祖母は「早く治って、りんごを食べたいのう」と言っていたが、叔母にすすめられたリングル注射を、近くへ疎開していた産婦人科医に頼み実施してもらった。その後まもなく祖母は全身痙れんを起こし、あ

っけなく息を引きとつてしまった。

後日、解ったことだが、医師は注射器の空気を抜かず静脈注射をし、祖母の血管をつまらせ死に至ったことを知った。当時は、訴えることも知らず、戦争を潜り抜けた祖母（六十四歳）はあっけなく人生を終えた。

戦争実態のひとつ

渡辺 晃（八十九歳）

私は、退職（一九九四年）後、ふるさと山形の友人から、山形県酒田港への中国人強制連行と労働実態の事実調査に誘われました。調査の結果、連行された三三八人が港湾荷役や貨車積みなどの仕事で働かされる中で、三十一人の方が亡くなったことがわかりました。被害者である中国人の自宅を訪問して、夫や子供が日本で死亡していたことを初めて知ったという言語に絶する苦難を聞くことができました。

終戦間近に、中国の若者三万八千九百三十九人が日本の港や鉱山に強制連行され、過酷な労働によって六千三百四十人も死亡しています。この事実に対して、日本政府は、どう対応しているのでしょうか。

小学生の作文

戦争や平和について聞いたこと、知ったこと、
思うこと

平和への一歩

岸 花凜

私は、戦争に意味があるのかと思いました。なぜ、このような作文を書いたのかと言うと、ある映画を見て、えいきょうを受けたからです。

戦争体験世代は、二〇二〇年で国民の〇・五パーセントにまでへり、今後は、ほぼゼロになるといわれているそうです。私がこの作文を書く事で戦争を知らない人達に伝えていきたいと思いました。

私は、先日特攻隊員のことをえがいた映画を見ました。特攻隊は、ばくだんを積んだ戦とう機で、敵の船に体当たりし、ちんぼつさせるのが目的でした。

私は、自分の命をぎせいにしてまで国を守るということに心が痛みま

した。特攻隊員は「お国のため」と言い戦地へ向いました。残された家族や恋人は、大切な人のことを思うと、とてもつらくて悲しかったにちがひありません。

私は、自分の命も大切だけれど、大切な人がいなくなってしまうことは、もつとつらくて悲しいです。たくさんの方の命をうばってしまう戦争は、絶対にゆるしてはなりませんし、これからもないようにしていかなければなりません。過去に辛いことがあったとしても、未来に同じことをくり返して何が生まれるのでしょうか。

世界が平和であり続けるようには、おたがいをそんちようしあい、相手の状況を考えていかなければと思います。

戦争と平和について

佐藤 心緒

私は「沈黙の証言者」を見て、印象に残った事が二つありました。

一つ目は、証言者の人たちが七十年以上も前に経験した事を鮮明に覚えていている事です。戦争を体験した人は、恐怖や驚きで多少は覚えられないかと思っていきましたが、はっきりと覚えているという事が印象に残りました。

二つ目は、昔の日本では戦争をしていたのに、今の日本では戦争が起きていないのはなぜかという事が印象に残りました。なぜ今の日本では戦争が起きていないのか、戦争する前と後に何が変わったのか調べてみました。

調べてみた結果、戦争は人々の考え方の違いなどから発展していくものだと分かりました。今の日本で戦争が起きていないのは、日本国憲法が関係している事が分かりました。日本国憲法第九条にある「国際平和を誠実に希求する。」という言葉から日本は、国際平和や平和主義をもとに戦争をしてはいけないという事も分かりました。

私は、今回戦争について調べて知った事を自分の身近にあることに例えてみました。例えば、クラスでのケンカは意見の行き違いから発展していくのではないかと考えました。この考えから私は、一人一人の考え方も尊重しつつ自分の考え方も伝えられたらいいなと思いました。

戦争や平和について

宮崎 梨愛

昭和二〇年二月十七日、午前七時三十七分に空しゅうけいほうが発動されたと聞いたら、当時の人たちはすぐく怖かったと思いました。そして、空しゅうが始まり、ひたち工場、立川工場などが大きなひ害を受けたのも、工場で働いていた人たちのことを考えると、本当に心がいたみました。

当時の人たちは、工場の入り口もわからなかったそうです。空しゅうにより、七分間で七十八人の方が亡くなりました。七分で七十八人だなんて、とても想像できません。

しかしそれだけではなく、昭和二〇年の四月二十四日にも起こってし

まいりました。私は、すでにたくさんの方が亡くなって、苦しんでいる人がいるのに、さらにおそろしい思いをするのかと、許せませんでした。当時の人たちの気持ちを考えると、信じられなかっただろうし、息もできないくらい苦しかったと思いました。空しゆうは、三回も起こり、百十一人が亡くなりました。それに、きっと今も愛する家族を失い、ずっと苦しんでいる人がいます。そんな思いをした人たち、こんなおそろしいことがあったということを、私は絶対に忘れてはいけないと思うし、もう二度と、そんなひどいことを起こさせちゃいけないということを、南公園の建物が教えてくれていると思います。なので、私たちが、たくさんの方に伝えて、平和な世の中に少しずつできたらいなと思います。

戦争と平和について

横田 樹

皆さんは沖縄と言え、きれいな海があり、自然に包まれた豊かな島を思い浮かべるでしょう。ぼくも美味しい食べ物がある、おだやかな島だと思います。

しかし昔、沖縄は太平洋戦争の恐ろしい戦場であったことを丸木夫妻の「おきなわ 島のこえ」という絵本を読んで知りました。

はじめは花と緑がいっぱい島の島で人々は畑を耕し魚をとり、子供は朝から晩までとび回って遊んでいました。しかし戦争が始まると、お父さんが遠い場所に兵隊として連れていかれました。お母さんやおばあさんは日本兵の手伝いをさせられ、子供と老人は戦争のじやまになるので九

州へ避難するようにすすめられました。一九四四年十月十日、アメリカ軍が町や村に爆弾を落としました。翌年四月一日早朝、アメリカ軍が沖繩に上陸すると、道は、血を流して避難する人々でいっぱいになり、銃弾に当たって動けなくなった人もいました。この戦争で赤ちゃんもふくめた沖繩県民の四人に一人が亡くなりました。

ぼくは沖繩に行く度に楽しい観光地だと思っていましたが、次に行くときは、大勢の命をうばった戦争があったことを頭に留めておきたいです。そしてこのような戦争が二度とくり返されないことをぼくは心から願います。

命こそ たから

横田 望玖

わたしは、「おきなわ島のこえ」という絵本を読んで、戦争がどんなものかを知りました。戦争は、大あらしよりもこわくて、おそろしいものだと、体中で伝わります。想ぞうするだけで、体が、ふるえてしまいます。そうです。わたしがおそろしいと思った絵本の場面は、三つあります。一つ目は、アメリカ軍の飛行機がおそいかかり、ばくだんをおとしてきたところです。わたしがこの場面で思ったことは、平和だったのに、はげしく戦争が起きたということです。二つ目は、赤ちゃんをだきかかえたお母さんに、たまがあたって、動けなくなったお母さんが「わたしはもうだめです。この赤んぼうを、どうかもらってください。どうか助け

てやってください。」といっている場面です。お母さんが、赤んぼうの命を助けるようにいったのが分かります。けれども、みんなは、自分の命を守るために必死で、助けられません。助けようとしても、助けられなかったでしょう。三つ目は、日本がまけたとき、一人の日本兵が白い旗をふって海に入っていたとき、別の日本兵が後ろから、その一人の日本兵をうった場面です。うった日本兵は、日本がまけたと思いたくなく、かつたのでしょう。

わたしは、家族がいつ、いなくなってしまうのか分からないので、毎日、家族と顔をあわせてあいさつするようにしています。あと、え顔を大切にしています。

わたしが、おきなわの言葉で、大切にしたい言葉は「ヌチドウ タカラ」です。このおきなわの言葉の意味は、「命こそ たから」になります。

す。「命こそ
たから」を一生、大切にしたいです。

中学生の作文

戦争や平和について聞いたこと、知ったこと、
思うこと

沈黙の証言者感想

赤井 心美

今回の「沈黙の証言者」を見て、戦争の恐ろしさや戦時中の暮らしについて学ぶことができました。

戦争の恐ろしさでは、いつ爆弾などが降ってきて死ぬかもしれない恐怖を感じました。実際に戦争を体験した人の話を、動画を通して聞くことができよかったです。

戦時中の暮らしでは、私たちと同じぐらいの中学生などが飛行場などで働かなくてはならなく、とても可哀そうな暮らしだと思いました。飛行場で働くことになり、今の私たちのような平和で楽しく、明るい毎日ではなかったのだと感じました。

もしも自分たちが戦争を経験していたら、すごく怖く毎日ちやんと寝ることすら、ご飯を食べることすらできない生活が続いていたらと思うと当時の人々はすごく必死に耐え抜いていたんだなと思いました。

そして、戦争は絶対にあってはならないことだと改めて感じました。戦争があることにより、沢山の命が失われ、今私たちが笑顔で楽しく暮らしていることが当時の人たちでは当たり前ではなくて、笑う暇なんてなかったのがとても可哀そうでした。今でも戦争中の記憶が鮮明に残っているのがとても可哀そうでした。家族や親せきが亡くなっても今日まで立派に生きている人々を誇りに思います。戦争をしても誰一人得しないし、損しかしないので今、戦争をしている国々から戦争がなくなることを願っています。

沈黙の証言者

赤羽 祐紀

僕たちのすんでいる東大和市は、緑ゆたかな平和なまちです。東大和市は、平和だが、昭和二〇年二月十七日に空しゅうけいほうがなり、爆だんがいつぱい落とされ、東大和市は火の海になりました。東大和市に変電所があったから東大和市がねらわれ、爆だんが落とされました。体けんしやは、そのときはもう自分をまもるのにひっしで、にげようと思ってもにげられなくて、死んだ人たちもいつぱいいたそうです。このことから戦争は、ただただ人が死ぬだけの、意味のない戦いで、人が幸せになれない戦いだからこそ戦争は、あらためてよくないと思いました。変電所は、小学一年からしつていたけど、ちゃんと見たことはなかった

ので、小学六年のときに、ちゃんと見て、僕が思っていた以上にすごくて、爆だんや、戦とう機から撃たれたたまのあとも多くてびっくりしました。

戦争がおきない、起こさないために、戦争をけいけんしてきた人たちの話をよくきいて、次代の子たちにも、どれだけ戦争がだめで、よくないかをおしえて、戦争をしない、おこさないようにしたいです。僕が大人になったら、子どもなどに、変電所がここにあったり、戦争がおこったり、爆だんがおとされたりしたことを説めいできるようになりたいと思います。

失った命 東大和変電所

浅野 日向

この東大和変電所の動画で見た感想を言います。最初は変電所の銃跡です。変電所って最初はどうかと思うかもしれませんが、いわゆる工場でした。この変電所で、多くの人の命が犠牲となりました。たった七分間で百人以上の犠牲が生まれました。それに沢山の銃跡がありました。自分はこれを見て沢山の人たちがここで犠牲となったのが悲しいと思いました。この東大和市でまたこんなことを起こさないようにしていきたいです。次は空襲警報です。昭和二〇年二月十七日、午前七時三十分、空襲警報が発令しました。八時三十五分空襲警報が解除されました。九時四十七分また空襲警報が発令しました。日立工場はばくだいの

損害を負いました。立川工場も日立に比べれば若干の損害を受けました。工場の平均年齢は十四歳から十六歳からだと思えます。

沈黙の証言者

荒井 菜摘

私は東大和市の戦争についてあまり知らず、変電所がある程度だと思っ
ていました。ですが「沈黙の証言者」を視聴した後だと私たちが今こ
んなにも平和で楽しく過ごしているまちが戦場だと思ふと悲しい気持
ちという反面、忘れてはいけない記憶だと思いました。昭和二〇年二月
十七日、朝から鳴り響く空襲警報に恐怖だったのではないかと思いまし
た。防空壕の中に隠れても亡くなってしまふ方々がいて、もう逃げ場が
ないそんな状態だったのではないかと思いました。戦争を体験した方々
はそのときも恐怖で、すごく怖かったと思いますし、戦争中の記憶なん
てそう簡単に消えるわけもない一生自分を苦しめてしまふ核兵器だと

思いました。一つだけ残った戦争の恐ろしさ、戦争の苦しさについて教えてくれるような変電所について私は一生残していきたいものだと思います。変電所をみると大きな穴がたくさんあり、最初は何かと思いました。それが空から飛んできた爆弾の破片や銃弾だと思うと悲惨な姿だと思いました。

激しい戦果に耐えて東大和の文化財に指定され、後世に戦争の悲惨さを伝えていく役割をもっている、そして、この国が二度と戦場にならないように、この平和がいつまでもいつまでも続いていくようにするためにこの変電所はそんなメッセージを残すために今も立ち続けているのだと思いました。そして私たちに受け継がれてきた思いをこれからも大切にしていききたいと思いました。

「沈黙の証言者」

安藤 峻也

私は、戦争について学びました。

初めに戦争は、兵力による国家間の闘争です。戦争のきっかけは、日本海軍がハワイ真珠湾に集結していたアメリカ太平洋艦隊へ総攻撃をかけた「真珠湾攻撃」です。

簡単に言くと国同士の戦いです。戦争は、とても怖い、恐ろしいです。変電所の動画を見て気が付いたことがあります。変電所などに空襲が落とされていました。空襲を落としてきたのは、一日ではなく、二日、三日空襲を何回も落としてきました。その空襲が始まってから七分で人が七十八人の命がなくなっていました。この文章を聞いたときえつ、

と思いました。空襲などで人の命が簡単に無くなってしまったり、
だなど思いました。

空襲警報が鳴った時家にいた人たちはどんな行動をしていたのか気
になります。私の予想では焦っていた行動だと思います。気持ちはどう
しよう、怖いという気持ちだったと思います。空襲の時にはきつとしつ
かりとした、生活、食事ができていなかったと思います。空襲、戦争は
火事などと違って、火事は大切なものがなくなってしまうけど、命はき
つと助かる。空襲、戦争も大切なものはなくなってしまうけど、命が助
かるかわからない。これが大きな違いだと思います。私が思うことは、
もう戦争は一度もおきるなど願っています。私は、空襲、戦争で亡くな
った人の分を一生懸命やって生きようと一日一日を大切に生きていま
す。これから先もしかしたら戦争が起こってもおかしくないのが本当に

一日を大切に生きて過ごします。

「沈黙の証言者」を見て

石井 彩衣奈

私はこの動画を見て、戦争はすごく怖いと改めて感じました。ニュースで見たウクライナの戦争はどこか遠い所の話のようでしたが、この動画で、今私たちが生活しているこの場所にも空襲があり、建物を壊され、たくさんの人たちが怪我をしたり、亡くなったりした事を知り、苦しい気持ちになりました。爆弾が降ってくる時、どういう気持ちだったのだろうか。きっと私だったら泣き叫んでしまうと思います。逃げる場所もなく、生きることが諦めなければいけない状況というのが、言葉に出来ないくらい恐ろしいです。

そして同時に、戦闘機の部品を作っていた子たちと比べて、私たちが

どれだけ幸せであるのか有難いと感じます。

どうして戦争が起こったのだろうか。誰が戦争を始めたの？ 反対する人はいなかったの？ 戦争をしなければいけない意味が私にはよく分かりません。たくさんの人たちの生活や命を犠牲にして手に入れられるものって何だったのか。

疑問ばかりが残ります。

今も世界のいろいろな国で争いが続いています。平和を願う気持ちはきつとみんな一緒なのに、人がいる数だけ、いろいろな考え方があつたろう。お互いを認め合えればいいのにと私は思います。

戦争は絶対に起こって欲しくありません。

新たな事実を知った授業

伊藤 遥斗

僕はテレビやYouTubeなどで戦争の知識を得ているのと新たな知識を得るのが好きです。一年生で行った校外学習でも様々な知識を得られてそこからなぜ戦争が起きてしまうか、考えました。今回見た映像でもいろいろなことを考えました。映像では、何度も米軍の飛行機が通って警報が出ていても攻撃がされることがなかったといっていました。みんなが油断していたので、爆撃当日警報が鳴っても隠れる人が少なく、そのせいで多くの犠牲者が出てしまったといっていました。これは米軍が仕組んだ作戦だと思えます。やはり警報が鳴っても来ないんだったら隠れる意味がないと思っていたのでしよう。

工場で働いている人は若い人が多くちようど僕たちの年齢と一緒の人が働いていて今の僕たちはとても幸せ者だと改めておもいました。男子は肉体労働、女子はいろいろな作業という過酷な労働環境で働いており、毎日のように空襲警報が鳴り、体と心が持たないかと思いましたが、それでも生きていた人たちは僕の中ではとても強い人だと思います。

今はぼつんと立っている旧日立航空機変電所ですが、昔は東京ドーム約四十個分というとても大きい大きさを誇っていました。昔では最新の映画館などの環境は整っていたといっていました。でもその大きさを誇る場所でもたった七分で消えてしまうほどの規模は考えるだけでもすごく怖いのです。しかも七十八名の死者、無数のけが人、しかも子供も容赦なく撃つていたという残酷な地獄絵図が実際にあり、それを伝えてるのが今の痛々しく残っている変電所だと思います。

あの変電所はこんなにも残酷なことがあつたというための建物でこれからもこの先も必ず残していかないといけないと思います。これからも新しい戦争の知識を得ていきます。

沈黙の証言者をみて

岩品 絆良

僕は、よく友達と一緒に東大和南公園に遊びに行くときに、毎日旧日立航空機立川工場変電所を見てもあまり何も思わなかったけど動画を見て僕は、こんな場所でこんなことがあったなんて初めて知りました。

僕は、この話を聞いてとても怖くなりました。なぜなら最初は空襲警報がなってから三〇分くらいたってからまた空襲警報がなっていたが、十時三十五分から約七分にわたり空襲警報がなり響いていていつ攻撃されるかわからないからとても怖いなと思ったし、変電所で仕事をしていた人たちは、爆撃で死んでしまった人は体全体がばらばらだったと聞いてとてもおそろしいことがあったんだなと思いとて怖いなと思

ました。

この爆撃のせいで工場が壊されてしまい仕事ができない状態になってしまったり、変電所が爆撃にあったと聞いて仕事が休みだった人たちがすぐにはかけ付けた人が言っていたことは、いつもだったら門を通っていたが門がなくどこが入り口かわからないくらいひどい状態だったと言っていて想像しただけでとてもすごい爆撃が起こっていたんだなと思います。ただ仕事をしていただけなのに爆撃のせいでもものすごい人たちが死んでいき可哀想だなと思いました。

この話を聞いて東大和南公園にある変電所は、とても貴重なものなんだなと思ったし、こうゆう話をできる人は少なくなっているから自分がしっかりとこの話を覚えてこういうことがあったんだよと伝えていきたいと思いました。

沈黙の証言者感想

内野 結衣

私は沈黙の証言者を見て、爆撃は怖いなと思いました。

なぜかというと、実際に爆撃をうけた変電所に爆撃の跡がたくさん見られたからです。鉄筋コンクリートでできた変電所に穴があいていたり、配電盤にあとが残っていたり、飛び出ている鉄筋が曲がっていたりして、こんなにも頑丈そうな建物に沢山の傷跡がついてしまうなんて「どんなに威力が強いのだろう」と思いました。

そして、当時の人の証言では、たまたま家にいて、家から低空飛行している爆撃機と立ち上る黒煙がみえて、爆音が響いていたといっていました。また、航空機工場関係の場所を囲うように塀や門があり、いつも

の決まった門から入らず、違った門から入って、いつもの門から入った人は亡くなってしまったという話を聞いて、一つでも違ったら死んでしまふ未来があったことが恐ろしいと思いました。

だんだんと空襲警報が鳴っても防空壕に逃げない人が増えてきて、落ちてこないのではという雰囲気は漂い始めたときに爆撃が起きて逃げない人もいて、逃げた人も防空壕がつぶれて亡くなってしまふことがあって、だんだんと爆撃はおきないのではないのかと思って逃げなくなることもわかるが、逃げた人も防空壕がつぶれて亡くなってしまふのは予想もできないことで悲しいと思いました。

私は沈黙の証言者を見て、頑丈な建物に深い傷がいくつもできることも、何か一つ違うと死んでしまうことがあったことも、空襲警報がなることが日常になって逃げない人がでてくることも、逃げた人もなくなる

こともすべてが爆撃によっておきたことでやはり爆撃怖いなと思いま
した。

沈黙の証言者「感想」

内野 匠馬

私は、東大和市の戦争のことについての動画を見ました。私は正直、東大和市が戦場だなんて思っていませんでした。ですが、実際動画を見てみると、この辺は、昔、航空機工場があり、十三、十四歳くらいの人たちが働いて居て、二月十七日には、大空襲を受けその航空機工場の入り口すらわからない状態にまで攻撃を受けました。ですがそれだけでは終わらず、そこから次々と攻撃を受け・・・と聞き、ここまで豊かな東大和市が、こんなに、悲惨な状況だったなんて、想像ができませんでした。

今、自然でいっぱい東大和南公園にポツンとある穴だらけの建物は、

空襲から耐えた変電所です。見ただけで、空襲のすごさがわかります。所々空いてる穴は、銃の玉や、いろんな破片などで空いた穴です。これを見て、変電所の中にも、安全じゃないということを感じさせられます。この変電所では、十代の人たちが毎日朝早い時間に歩いて行ってグチ一つなく、働いていたそうです。これを見てえらいなと思いました。自分だったらずっとグチを言ってるだろうな。

私は、この動画でたくさんのことを学びました。その中でも一番学んだのは、あたりまえなことですが、戦争は、やってはいけないことです。危険だし、誰もうれしいことがないと思います。これからも戦争がない国であってほしいです。

「沈黙の証言者」

内野 心麗

私は、戦争の動画を見てみてすごく体がぞくつと震えてしまいました。あの動画を視聴しただけでも、ものすごく怖かったのに実際体験した人達は、どんなに怖い思いをしたのか・・・どんなに不安だったのか・・・私は視聴しただけじゃ何も分かりませんでした。それに、数分の空襲で何十人もの人が亡くなっているなんて想像もできません。

空襲を体験したことのある人達の話を知っていると、生き残ったことは奇跡だと思いました。一人の方の話は、「真面目に自分の防空壕に入っていれば今自分は生きていない」そんな話を聞いて、一つ違うだけこんな人生が変わるのだと思いました。

一番心に残っている話は、「大人・子供関係なく狙って打っていく敵の顔が忘れない」という話です。その話を聞いたときは本当に戦争って怖いなと思いました。そして、七分の空襲で七十八人も人が亡くなっている恐ろしさを知りました。

戦争は、命・家族・友達・建物・お金・食料など、様々なことを一瞬で奪ってしまいます。

私は、戦争は何があってもやってはいけないこと。決して忘れてはいけないものだと思ひました。

そして、思い出したくない、悲しくて嫌な経験を話してくれた方々に本当に感謝したいです。

戦争の恐ろしさ

生方 萌々花

今回は、東大和市で何があったのか、わかった事を紹介します。

昭和二〇年二月十七日午前七時三十七分警報発令、八時三十五分警報解除、九時四十七分空襲警報、十時三十五分より約七分間グラマン及びカーチスの大空襲を受けました。約七分の攻撃で、七十八名の命が奪われました。私は約七分の攻撃で、七十八名も命が奪われている事を知って驚きました。

旧日立航空機立川工場

今でも、傷跡、銃撃が残っている旧日立航空機立川工場。三度空襲にあつて百十一名が犠牲になりました。一〜二秒の間に爆弾を落としてい

ました。壁についていた傷をみて当時の戦争は、とても激しかったと思いました。旧日立航空機立川工場は、公園にあるからいつか見に行きたいです。今、平和なのは当たり前なので、一日一日を、大切に生きていきたいです。私は旧日立航空機立川工場を見て、命の大切さを、教える物だと思いました。

この、沈黙の証言者を通して、戦争の恐ろしさを、深く学びました。約七分の攻撃で、七十八名もの命が奪われていて驚きました。なぜなら、約七分の攻撃で、沢山の人々の命が奪われたからです。私は、亡くなった人の分まで、今を大切に生きようと思いました。そして、人生後悔のないように全力で楽しみたいです。

沈黙の証言者感想文

大森 柚季

私がこの映像で学んだことは、まず変電所はもともと「日立航空機立川工場」でそこでは十四歳から大人までの八百人が働いていて、端から端まで行くと二十五分くらいかかるほどの大工場だったが、昭和二十年二月十七日にたったの七分で七十八人が亡くなり、そのほとんどが窒息死であったこと。そして、三回の空襲攻撃があり、すごく厚いコンクリートの壁も中の機械まで穴の痕が残るほど威力があったことだ。

私が思ったことは、何よりも今こんなに自然豊かでたくさん笑顔であふれている東大和市が七十九年前、約百十二人の命が失われそしたくさんの人々が苦しんだ空襲がなぜおきてしまったのか。また、これか

ら絶対に同じことを起こしてはいけないということだ。

私はまだ生まれていなかったが当時の様子の写真や映像、実際に体験された方の話、変電所などの当時のまま残されている物で私たちにも、ものすごく苦しかったこと、怖かったことが伝わってくる。特に変電所のクレーター状の穴は当時の様子がよく分かる。

私たちは、今、当時の様子を知り、また起こったとしても防げるよう対策をしておく必要がある。例えば、警報が鳴った時にとる行動を実際にやってみたりすることで苦しい思いをする人が少しでも減ると思う。このように「もし起こったら」ということを考えて今から行動することが大切だとわたしは思った。また、貴重な体験した方の話を聞いておくことが大切だと思った。

私は、今、普通に過ごしている生活が「当たり前ではない」というこ

とを頭にいれて今を過ごしていききたい。

「沈黙の証言者」をみて

大野 楓

私は、戦争について興味があつて、調べたりしていましたが、東大和市の戦争についてはあまり知りませんでした。小学校の時に旧日立航空機株式会社変電所を訪れた時に初めて東大和の戦争について知れました。今回観た「沈黙の証言者」では、めったに聞けない当時戦争に立ち会った人の話を聞いてよかったです。

日立航空機工場はもともと、私が思っていたよりずっと広がったことが分かりました。従業員の数が多いのもこのためなんだなあと納得しました。

空襲や警報が鳴った記録などがつづられた空襲日誌では、最初のほう

は空襲警報が鳴るだけで、東大和は空襲に遭っていなかったことがわかりました。地域や工場の人たちは、空襲警報が鳴っても「どうせこないだろう」と油断してしまい、敵機がきても逃げられずに空襲に遭ってしまっただけで、悲しいです。

当時働いていた方の話は、空襲のあとに工場を訪れた方でも怖かったりびっくりしたというもので、どれほど悲惨なことになっていたのかわかりました。

たった七分間で大勢の人々が亡くなってしまったことで、いかに戦争が恐ろしいものなのかがわかりました。時代が進むにつれて、当時生きていた方々の話はきけなくなってしまうので、私たちが戦争について理解し、次の世代へ伝えることが大事だと思いました。

沈黙の証言者

岡寄 日葵

私は、小学校の時に変電所へ見学をしに行きました。壁が本当にどこもかしこも穴が開いていてどれだけすさまじい空襲だったのかが感じ取れました。でも、詳しいことは何も知らなかったのだと映像を見て思い知ったのです。

当時日立航空機には十四歳から十五歳の働いている人が一番多かったそうです。いわゆる児童労働ってやつですかね。その数八百人くらいいたそうなんです。大人は兵隊として敵地に行っているのも私たちと同じくらいの子供に兵器を作らせるのはおかしいと思いました。

戦争が始まって、東大和には空襲が来なかったそうです。でも、昭

和十九年から東大和にも空襲警報が。この時から大量に来るようになりました。そして、昭和二〇年二月十七日午前九時三十五分空襲警報発令。そこからわずか七分間の攻撃で死者七十八名を出しました。死者の多くは避難した防空壕に焼夷弾が打たれ、窒息死だったようです。空襲を防ぐために入る防空壕。それが逆に命を奪っていたのかもしれない。なんて残酷なことだろうと私は思いました。相手はこちらが子供でも狙い撃ちし、まるで一種の狩りのようだったそうです。爆弾を落とされた場所が悪かったら死んでいた。毎日毎日人が死んでいく日々。私だったらきっと正気を失っていたか自殺をしていたんだと思います。

この映像を見て、改めてやはり戦争はもう二度と繰り返してはならない悲惨なもののだと感じました。今、世界ではロシアとウクライナの戦争やイスラエルとパレスチナの問題など各地で争いが起きています。

両国の理由があるとは思いますが、戦争は何も良いことは生まず、勝つても負けてもただむなしいだけです。日本も世界で一国だけの被爆国として平和の大切さをもっと伝えていけたらいいなと思いました。

沈黙の証言者

粕谷 知希

私はこの動画を見てそこには土曜日の部活の練習で見かけている、四角形のコンクリート建物がありました。最初はこの建物と動画にそのまま関係がないと思っていました。でもこの建物こそがここで大きな出来事があった事を教えているとわかりました。この建物は変電所という物だそうです。それを取り囲むようにあるのが旧日立航空機立川工場があるそうです。そこでは学校と映画館などの建物があります。なのでここで暮らす人が多かったそうです。ここの工場の主な作業は飛行機を作っていました。そんなある日五機のアメリカの飛行機が誤って神奈川ではなく旧日立航空機立川工場に行ってしまった。そのためそこで襲撃

にいました。そこで計七十二名が亡くなりました。その次の襲撃ではB51という空爆機によって旧日立航空機立川工場があとかたもなくなりました。しかしこの旧日立航空機立川工場変電所だけが残ったそうです。また実際に襲撃にあった人たちの体験だんでは、一しゅんであたりが砂ぼこりであつたそうです。また自分のおばあさんの話ではイトーヨーカドーあたりで何人かが死んだり泣いたりでカオスだったそうです。最後に分かった事ではこのようなひげきは絶対に忘れてはならないということです。またこのことを次の世代の人たちにもちゃんと教えることも大切だと分かりました。

戦争

加藤 咲絢

私は、戦争のDVDを見ました。南公園にある旧日立航空機立川工場変電所は、一九三八年～一九九三年まで使用されていた。「西の原爆ドーム、東の変電所」とも称される戦争遺跡である。変電所は、平成七年に、修復工事をした。

一九四五年二月～四月、米軍の戦闘機や爆撃機B29による三度におたる空襲で、四月二十四日の空襲では、工場の八割が壊滅した中でも倒産は、免れました。建物の内外に三〇〇以上の爆撃跡が残りました。

戦後は、機械工場として二〇〇〇年まで操業し、一九九三年まで変電所も現役で働きました。工場の従業員や動員された学生、住民など百人

を超えるほどが亡くなった。変電所の窓や扉は爆風で吹き飛び、壁には爆弾の破片による無数の穴ができました。しかし鉄筋のコンクリート製の建物本体は致命的な損傷はうけなかった。変電所は戦争を伝える文化財になったのは、戦争で多くの命が犠牲になったことを誰よりも雄弁に物語ってくれるこの変電所を東大和市は平成七年十月一日に指定した。

・DVDを見て分かったこと学んだこと

今七十歳〜八十歳ぐらいがこの戦争を話していました。この年代の人たちは体験したことがあるのがわかりました。

「沈黙の証言者」

川村 友愛

今回戦争の映像を見て改めて戦争は恐ろしいものだと思いました。今から七十年前、百人以上の人達が亡くなって残酷だと思いました。自分と同じ年くらいの十四歳の人から大人まで工場で働かせられて大人でも大変そうなのに大人より小柄な子供も命がけで働かせられて被害にあった人もとても可哀そうだと思います。

戦争のことを今まで深く知りたいとは思いませんでした。今の日本は戦争がなく平和であり大きな争いがないからです。でも世界で今ロシアとウクライナの戦争が起こっています。毎日鳴り響く空襲警報で全員が目覚まし避難する。避難していても安心はできない。この状況は、

とても怖いことだと思います。いつ爆撃が落ちてくるか分からないこの恐怖の生活を変えてほしいです。

戦争とは人々がお互い殺し合い、殺される 誰も得をしない残酷な戦いだと思いました。大切なものも家族も全て失ってしまうのが戦争。二度とこんなことが起きないでほしいです。戦時中の食事も限られていて何も食べられないこともある。今、私たちは毎日美味しい食事ができているこのことは普通ではないこと、この平和な時代に生まれてきてよかったと思いました。自分がその時代に生まれていたらどうなっていたのかと考えるだけで恐ろしかったです。一日でも早く世界中の争いがなくなっただけです。

平和について

川田 響

僕は、平和について学びました。今回平和について学んだことを紹介します。

最初に原爆のことについて教えます。

原爆は色々な県に落とされたくさんの被害を日本が受けました。原爆を落としているのは、B29というアメリカの兵器で日本に大きなダメージを与えた兵器です。

旧日立航空機について

旧日立航空機は航空機のエンジンを生産し軍需工場に送電する工場です。

旧日立航空機は一九四五年四月二十四日、B29百一機の編隊による空襲により被災。弾痕を残しつつ一九九三年まで変電所として使用された。

旧日立航空機は戦争が終わった後自動車会社として平成十二年（二〇〇〇年）まで操業を続けました。

主要設備機能の更新をしつつ工場に電気を送り続けていました。

外壁には刻まれた生々しい爆撃の傷跡や内部の一部にも痕跡を残したままの状態に使われていました。

僕は今回平和について学びました。

この事から僕は命を絶対に無駄にしてはいけないと思いました。

なぜなら、昔は戦争に行ったら死んでしまうことがあり簡単に命がなくなってしまうからです。

沈黙の証言者

川崎 大夢

自分たちの住んでいる東京の東大和市での実際にあつた戦争、空襲の話や、映像を見て思ったこと、感じたことがあります。

まず、東大和市も数多くの空襲を受けていることに驚きました。

東大和市の南公園にある「変電所」がつかわれていた時代に旧日立航空機の名前はきいたことがありますが、ほかの、二社の名前は聞いたことがありませんでした。

自分たちの住んでいるまちが、第二次世界大戦での戦場になっていて、数多くの尊い命が、アメリカ軍の空襲、機銃掃射などにより奪われていったなんて想像もつきません。また、六、七分の攻撃でもものすごく長

くかんじるといふ体験者の方の言葉がすごく印象に残っています。

小学校六年生の時に、変電所の中に入るといふ貴重な体験と今回の話が重なりやはり戦争は駄目だなど思いました。

今、日本は平和ですが、ロシアとウクライナとの戦いやガザ地区での戦いのニュースは連日放送されていて、今回の映像を見て、やはり、武器を使った争いは無意味だし、悲しむ人が増えるだけだなど思いました。

今回、「沈黙の証言者」を見て戦争の悲惨さ、そしてここ東大和市での戦争や世界中の戦争に共通していえるなど思ったのが、「武器を使った」ことはなにもよいことを生まないなど思いました。

「沈黙の証言者」

木谷 幸音

私は「沈黙の証言者」を見て、東大和市と付近の市で起きた戦争について学びました。何を学んだかという点、都立東大和南公園にある、戦争の二百五十キロの弾でボコボコにされた建物やその空襲の時に生きていた人の話や日記などが出て、空襲の時の写真、絵など、より本格的に戦争のことが前よりもわかりました。それで戦争はやっぱり恐ろしいものだなと思いました。

アメリカが初めて東大和市に空襲を落とした日の死者数は七十八人でした。理由としては、東大和市に空襲が落とされたのは、周りの市で落とされて警報が鳴っても、東大和市には、空襲が来なかったので、逃

げたり、隠れたりする者が少なかったため、七十八人も死者が出たという事です。

昔の都立東大和南公園にあった工場で働いていた人たちの話では、どんな人が働いていたのか、どこになんの建物があったのか、などの話を聞きました。

東大和市の郷土博物館の人が話していたのは、戦争で亡くなった人が書いていた日記の話をしていました。日記には、「午後〇時 米から襲来」のようなものがたくさん書いてありました。

都立東大和南公園の建物は、中に入れて、中には丸い穴のようなものがたくさん開いていました。それを見て、すごく悲しくなりました。改めて戦争は嫌だと思いました。

「沈黙の証言者」の感想

橘田 咲菜

私は道徳の時間の学習を通して戦争の恐ろしさを学びました。自分の生まれた地域で残酷なことが起きていたなんて知りませんでした。

東大和は戦争とは全く関係ないところだと思いましたが映像を見て爆撃などが起きていたことを知りました。

東大和でも空襲によって亡くなった人も多くいることを聞き、とても残念に思いました。

こういったことは他人ごとではないと思いました。

空襲や爆撃が東大和で起きていた時、工場では私たちと同じ年齢層の子たちが働いていたことがわかり、その時の苦労がわかりました。「ど

んなにつらくても自分の使命だと思い……」と現地の経験者は話していました。

十代の子供たちも戦場に出て多くの命を落としていきました。

戦争とは恐ろしいものだと思像を見て理解しました。大切なものを、大切な存在をなくすことは誰にとっても非常につらいことです。

もうそんなことは起きてほしくないと私は思います。

過去の時間を刻みつつ、こうして現代にも戦争の事を受け継いでいければいいと思っています。

昔からそうですが戦争をすることで平和が少しずつ削られていく、と思いました。

今が平和なのは、昔に多くの出来事が起きているからだとかみしめながら、現代に生かしていきたいです。

今回貴重な体験映像が見られてよかったと私は思っています。

今はアメリカと交友関係になっていますが、今後関係が崩れれば過去のようになってしまうかもしれないという恐ろしさを想像しながら、これからも授業に励んでいきたいと思えます。

多くの事を学びそれをほかの事に生かしていければうれしいな、と思えます！

「沈黙の証言者」を通じて

久保田 智裕

私が「沈黙の証言者」を見て感じて思った事はたくさんあります。

まず、防空壕の話です。聞いた話ではもともと空襲があったことらしいのですが、急に来た空襲で約百人ほど亡くなったと、聞いたとき僕はとても怖くなったと同時に「僕がもしその時生きていてその現場にいたらどんな感情なのだろう」と思いました。

おそらくですが、僕がそこにいたら恐ろしくて足も動かないのだろうなど、思います。そのような感じで逃げ遅れたりして亡くなった人がいたらしいです。考えるだけでとても心苦しいです。

この東大和市周辺は、「東京瓦斯電気工業株式会社」より「旧日立航

空機株式会社」この会社は、軍用機のエンジンを製造する軍需工場でした。軍需工場が集中していた多摩地域は数多くの空襲を受けました。この工場でも、三回の空襲があり多くの方がなくなりました。

私は東大和市の変電所の中に入ったことがあるのですが、入った瞬間に感じたことは、「外気の温度と限りなく近いな」と、感じました。その理由は戦時中の設備で保温効果もあまりなく、寒いときは寒く、暑いときは暑いのだろうなと思いました。

また、中には弾丸や撃たれた壁、穴が開いた壁、実物で正直生々しいなど思いました。

でも、今僕たちが生きているのは、そのような歴史があり「こんな世界はダメだ」と、みんな協力してきたからこそ今があるのだと思います。

この学習で学んだことはいつでも頭の中に入れておいて考えられるようにしたいです。

沈黙の証言者

久保 日遙里

私は沈黙の証言者を見てやはり戦争はやってはいけないことなのだなと思いました。

なぜかというと、その国に住んでいる人たちが自由に暮らせなくなるからです。国民は国のえらい人のいうことの言いなりになってやりたくないのに兵士にならないといけなかったり子供は教育を受けられなかったり勉強ができなかったりして自由が少なくなると思います。

それに、戦争をすることは死人が出るということです。なので、国の偉い人の言いなりになって死なないといけなないのはとてもよくないと思います。何もしていない国民が犠牲になって死んでしまうのは悲しい

ことなので戦争はやってはいけないことだと思いました。

ほかに、原爆が落ちていたのを目の前で見たり、空襲警報が鳴ったりと怖いことがたくさん起きていた中、国のために交代しながら働くというつらい日々が約六年続いていました。いつまで続くのかわからない、終わりが見えない戦争をつらい思いをせずと耐えることはとてもたいへんだと思います。

こんな思いをされている方は二度とこんな経験をしないため、させないために私たちの世代にも伝え続けてくれているのだなと思いました。戦争を経験した方々がなくなってしまうと、また戦争が起きてしまうかもしれない、そんなことが起きないように戦争を経験した方々のお話を忘れないで次の世代に伝えることができたらいいなと思いました。今はウクライナとロシアで戦争をしています。二度と戦争をしないよう

に今経験している人が次の世代に伝えてくれるといいなと思いました。

「沈黙の証言者」

栗原 ひまり

「沈黙の証言者」という動画を見て、初めて東大和市の被害など、きちんと知りました。

私たちの身近にはその被害が目で分かる場所があります。私は、そこを通ってもあまり何も考えていませんでした。でも動画を見てたくさんの方が被害にあつたのだと知りました。

戦争中、被害が大きくて大変だったのは、他の都心の方や、有名なところだと思っていました。ですが動画にもなるくらい被害が大きく、大変だったことを学びました。

私は、戦争を体験したことがないので、本当の怖さや、大変さなどが

分からないので、インターネットや、テレビなどでたくさん情報を
見
て、怖さなどを実感していました。なので、東大和市にも被害があつた
こ
とに驚きました。たくさんの怪我人や、死者が出たことを知り、とて
も怖く感じました。

辛い思いをした人が、たくさんいるので、これから先、戦争でこんな
こ
とが起きないようにしていきたいです。

東大和戦争についての感想

國分 南穂

東大和は、戦争があつたことは知っていたけど五十七万五千の面積があり端から端まで歩いて二十五分かかるほどの広さがあり、今との面影が全くなく驚きました。ほかにも人口が約一万五千人にも驚きました。ほかにも映画館やテニスコートや救護室などがありとても想像していたのと違つたりして印象にのこりました。

工場では働いた人数など年齢が十四歳くらいからで八百人いることを聞いて驚いたし、自分と同じ年齢にも驚いたし、何より勉強よりも仕事をさせられて自分が普通に勉強できることがどんなに幸せのことがわかりました。

六月十八日東大和初めてのサイレンの後、時が過ぎて二月十七日アメリカ軍から初めて東大和を襲い日立航空機株式会社変電所を襲い、コンクリートも壊すほどの大ききで二百五キロの重さがあり、外が見えるほどダメージがあり七十八名が死亡し深く印象に残りました。

日立航空機株式会社変電所以外にも、攻撃を受けていて、逃げている人を容赦なく打っていたりして子でも女性でも、打って行って、防空壕の中にいた人は、生き埋めになったりして百二名がなくなつたのが、たつたの七分でこんな亡くなるなんてとても絶望してしまいました。それにその防空壕の中にいた人は生きるか死ぬかのせとぎわにいて、早く終わらないかと願うほどに怖かつたことが、とても想像できました。

本当に戦争は、誰も得しないし誰も笑顔にならないし最後に戦争して「良かったと思つた」人がいないので、もう二度と過ちを犯さないでほ

しいと思うし、ほんの少しのことからでも戦争の恐ろしさを伝えてもう二度と過ちをしないようにしたいです。

沈黙の証言者

兎玉 大河

私は沈黙の証言者を見てたくさんのことを学んだり、教わったり、感じました。ですが、その中でも特に印象的だったものを見たときの感じたことを深く考えていきたいと思います。

私が特に驚いたものは、約七分間の攻撃によって七十八人の犠牲者が出てしまったというところです。私はこの記録を見たときにこの町でこんなことが起きていたのかと思いました。ですが、この犠牲者が出たときは一九四五年で約七十九年前のことで私の祖父、と祖母も生まれていなかったのだと考えると最近のこと、なのだなということが実感できません。

次に私が、考えが深くなるなど思ったところは実際に空襲を体験した人による、実際にあった話です。「空襲で七十八人の人が亡くなったのです。」と言われてもあくまで記録だから実際どのくらいの恐怖が襲ってくるか、どんな音がして、どんな景色だったのかもわからないと、詳しいことがわからないので、空襲への考え方が深まりません。そこで、実際に体験した人の話を聞くことで現実味が増すとともにその時に起きたことのイメージがしやすくなります。特に、私は防空壕での体験の話が印象に残っていて、防空壕の中にいるときの恐怖を言葉だけでも感じました。

私は沈黙の証言者を見てとても勉強になりました。ですが、それと同じに二度とこの過ちを繰り返さないように実際に空襲を体験した人からの言葉を未来へとつなげることをしていきたいなと思いました。

「沈黙の証言者」の感想

小林 由依

私は、「沈黙の証言者」を見て東大和の戦争の出来事を学びました。今、私たちが安心して楽しく過ごしている東大和市でこんなに恐ろしいことがあったんだと思いました。

旧日立航空機株式会社変電所では、若い人や、私たちと同じぐらいの子供たちが八百人も働いていて、今ある公園や施設も工場だったことも知れました。

戦争が始まったときに、東大和市は戦場ではなかったけれど、どんどん戦争が酷くなっていくと、東大和市は戦場となってしまい、多くの命が失われてしまったという、とても悲しい出来事があったことが知れま

した。一日に何度も空襲警報がなり、毎日不安な気持ちで生きていたんだなと思いました。考えてみるだけで、怖いです。

撃っている人からの目線映像を見た、という人は、そのことを「狩りだ。」と言っていました。銃で撃たれてしまう人よりも、防空壕に入つて窒息して亡くなつてしまった人のほうが多かったことは、初めて知りました。

私は、「沈黙の証言者」を見て戦争の出来事、そして恐ろしさについて知ることができました。今、私たちが住んでいる東大和でもこんなに怖いことがあったということも知ることができたので、もう二度とこのようなことが起きないでほしいと思いました。

戦争

小林 陽向

僕が戦争のビデオを見て感じたことを伝えます。

まず、最初にあの変電所で僕たちと同じくらいの人が働いていたことです。僕たちと同じくらいの人が戦争に巻き込まれて工場で働かされて命を失ってしまった人が百人以上いることを知って胸が苦しくなりました。

次に工場の規模の大きさや娯楽施設についてです。今ではお店や、家があるところにも工場が建っていて、しかも敷地の中には近未来的な施設がたくさんあったことが、戦時中の飛行機工場に当時珍しい娯楽施設があることがとてもびっくりしました。

最後に戦争について思ったことです。僕は今までに学んだことや、今回のビデオを通して戦争は何も生まない殺し合いだということや、改めて感じました。ビデオに「私たちの青春はそこで止まった」というような言葉があり、失い、何も得ることができないのは物だけでなく、人の気持ちや人生であるということを思いました。

僕が大人になり子供たちに教える立場になった時には戦争で何があったのか、そして戦争の無意味さを伝えていきたいと思うし、とても重要なことだと思いました。

沈黙の証言者

五味 仁平

僕は、戦争のことについて調べることが好きで調べたことがあります
が、東大和市の戦争での被害など直接調べたことがなかったので知らな
かったことがたくさんありました。

旧日立航空機株式会社変電所が建ち、一万三千人の従業員が働き、そ
の周りに従業員の家族に家があり、その広さ東京ドーム約四十個分と聞
いて、大きいのはわかるが、大きすぎて想像できない大きさで、驚きま
した。

当時立川飛行機の検査官に勤めていた澤田氏が、記録していた空襲日
誌に記録してある通り、たった七分間の空襲により、旧日立航空機変電

所内だけで、七十八人の死者が出たことを知り、本当なのかなと思うほど信じられませんでした。

空襲を体験した方によると、二月十七日の初めての空襲により防空壕に逃げ込み大量の人とぎゅうぎゅう詰めになりながら、空襲警報が解けるのを待っているとき近くに爆弾が落ち、爆弾による爆風と煙による窒息死が多かったと知り主な死因を知れました。

そして亡くなった方の、灰で真っ黒の死体を綺麗に拭き、家族や親族に渡すことを知って、僕は、戦時中だけど、綺麗にしてから渡すというところは、ちゃんとしているんだなと思いました。

四月二十四日の空襲は、鳥の逃げるような音と、B29のけたたましい音が聞こえると鼓動が高まり、命の危機を感じる、と聞いて、当たり前前の日常にそんな危険があるなんて、自分の生活に照らし合わせて考え

ると、想像があまりつかないが、絶対にそんな生活いやだなと思いました。

今回DVDを見て、戦時中の方たちは、悲惨な生活を当たり前のように、過ごしていたことをあらためて知れました。

東大和の過去

近藤 楓

私は、「沈黙の証言者」をみて東大和も空襲を受けた被災地だったということを知りました。しかし、なぜ被災地だったというのがわからなかったのだらうと思いました。それもあの動画に載っており理由の一つとして、被災地だったところは日立変電所を残し道路や住宅地になっっているからだそうです。ほかにも東大和の過去に何があったのか分かったことをいくつかお伝えします。

まず始めに分かったことは、変電所やその近くの住宅地は元々たくさんの工場でそこで働いているのが私たちと同じくらいの年代だったと

いうことです。さらに当時働いていた人々は、「働くことが自分の使命だ、勝つまでは頑張るしかない」など言っていました。

そして、当時働いていた人たちは学校閉鎖などになっていたそうです。東大和内でも複数の工場があったためみんながいつしよということにはなかつたようです。

次に、東大和はなかなか攻撃されなかつたということですが、東大和には多くの工場がありながらあまり攻撃を食らっていませんでした。それが東大和の人々の安心になってしまい警報が鳴つても隠れない人もいたそうです。しかし、米軍はそんな東大和市民の安心を裏切るように攻撃してきました。二月十七日初めて東大和は攻撃されました。その日の死者は約七十八人、多くの人が防空壕に押しつぶされた窒息死だったそ

うです。その日一日だけで工場は破壊されどこが入り口かもわからないほどぐしゃぐしゃになっていたそうです。

このほかにも映像を見てたくさんのかたを学びました。過去を語る人は、「子供ばかり狙うパイロットを忘れられない」などと語っていました。このような過去を繰り返さないためにこの過去を語り続けみんなが幸せといえる世の中を作りたいと思いました。

沈黙の証言者感想

齋藤 瑛音

いま私たちの住んでいるこの自然豊かで平和の東大和市が昔戦場だったなんて信じられません。

五十七万坪の百人以上がお亡くなりになったなんて空襲の恐ろしさ
と悲惨さがよく伝わってきます。アメリカの七十五機が来て低空飛行で
いろんな人の尊い命を奪っていき日立航空機立川工場の壁に穴が開く
ぐらいボロボロになっていてどれだけ銃で撃たれたかがよくわかりま
す。十四歳の若い人もお亡くなりになって、その人たちの夢や希望がす
べて奪われました。

八月十五日に戦争が終わり平和になったけど、空襲の悲惨さや恐ろし

さを知っている人が少なくなっていて、記憶からも消えていった空襲の恐ろしさでも、記憶から消えていかないように日立航空機立川工場が残されました。空襲を知らない若い人たちに空襲の恐ろしさを教えるために、平成七年に多くの市民の人たちから保存運動を受け東大和市の文化財に認定され、東の変電所として戦争の悲惨さを知らない人たちに伝えていく役目を持った建物になりました。外にいたら爆弾で逝去してしまうので防空壕に逃げて爆弾で逝去してしまわないように逃げた先の防空壕が爆弾でつぶれて窒息死してしまって、まだ防空壕なら逝去してしまわないと思われていたのに、防空壕がつぶれて窒息死してしまうなら本当に逃げ場がなくなってしまう、防空壕がつぶれないように願うしかないと思いました。

こんないつ逝去してしまうかわからないなんて生きていても生きて

いる感じがしないと思います。

東大和市の空襲

齊藤 暖奈

私は体育館で視聴した映像を見て今では考えられない出来事が私達の町、東大和市で起きていたなんて想像もできませんでした。

私は陸上部に所属しており、毎週土曜日には都立東大和南公園に行つて部活動をするのですが、もちろん旧日立航空機立川工場変電所は都立東大和南公園に位置しており、土曜日の部活動で行き帰りいつも目にしており旧日立航空機立川工場変電所に関してはいざ知らず知っていると聞いていたのですが、体育館で視聴した映像を見て色々旧日立航空機立川工場変電所の知らないところや歴史を知ることができました。数年前に個人で行ったことがありその時に中に色々資料が展示されており、空爆

時に使用された航空機や爆弾のレプリカが展示されていました。ですが、体育館で視聴した映像ほど詳しく知れませんでした。旧日立航空機立川工場変電所での資料を映像の情報に改めて思い出しました。毎週見ている変電所ですが映像や資料を振り返ると何十年前にこの平和で豊かなこの東大和市である日を境に空襲により、戦場と化してしまった事と何十年という歳月をかけてここまで復興した東大和にビックリしました。ある話によると旧日立航空機立川工場変電所を残すか解体するかで少し議論にもなったのだとか。

体育館での視聴した映像などを後世に受け渡すことが大事なのかなって思いました。

沈黙の証言者

佐藤 芽依

私は、「沈黙の証言者」を見て思った事は「戦争は、やはりいけないこと」「誰かが止めなければいけないこと」と思いました。

なぜかと言うと、死者がたくさん出てしまいうし、戦争をしたところで誰も得をしないと思うからです。

あと、この動画を見て、ロシアとウクライナの戦争が頭の中に出てきて、今自分がどれだけ幸せなのかをあらためて知りました。

私は、戦争と言ったらどうしても広島と長崎の原爆投下というイメージがあります。

「どうしても、原爆投下するまで激しい戦争になってしまったのだろう」

「そんなことしてなにがよいのだろう」「そんなことをして誰が嬉しくなるのだろう」と思いました。

私はその時代の人ではないので、分からないこともたくさんあると思います。

でも、修学旅行で広島に行って、戦争がいかに、やってはいけないことなのか、戦争をすることによって町は、どのように変わってしまったのかなどを、しっかり学ぼうと思いました。

私は、日本だけではなく、全国で戦争がなくなっただけで欲しいと願っています。

お互いが攻撃しあうのではなく、お互いを認めあって色々な国の意見を尊重しあえば、誰も亡くならなくて済むし、みんなが笑顔でいられる事案が増えると、私は思いました。

東大和も被害にあつた戦争

佐藤美南

東大和も襲われた戦争の動画を見た。東大和は、あまり戦争で襲われることがなく、あまり警戒をしてなかったそうです。ですが、急に東大和にも警戒アラートが何度もなるようになったと知りました。東大和にも約百十二人の死者が出たと知りました。

今でも、東大和南公園には、空襲の中、建物が、倒れずに残っています。その建物の付近から、片道約二十五分かかるところまで、ガソリンを作る工場などが、たくさんあつたと知りました。今でも残っている建物も、ガソリンを作る工場の一部だったと知りました。

その工場で働く人は、主に二十一歳くらいの人が多く、その付近に

合った仕事より、とても難しい仕事が多かったと知りました。そういう、工場系の仕事は、男性がやり、女性は料理などをする仕事をしていたと知りました。

ある人の話では、防空壕があり、空襲警報が鳴った時にその中に入ったら、上では、爆弾の音、防空壕の中では、怖がる後輩の「怖いよ」と何度も繰り返す声はずっと聞こえている状態で、もし、それを聞いているのが、自分だったら、自分が一番に泣いているのかもと思いました。この動画を見て、改めて戦争は、本当に決してやっつては、いけないと思いました。戦争は、本当に怖いし、人の命を奪ってやるものではない、ないと思いました。

沈黙の証言者

佐藤 柚香

昭和一三年二月一七日たったの七分で七八名が亡くなりました。その七八名のほとんどが、爆撃で亡くなったか、防空壕で圧死する人がほとんどだったらしく、その死体を運び火葬したひとたちがその経験を悲劇だと語っています。その他にもたび重なる空襲で東大和は戦闘機が通過する町から戦場へと変わっていったそうです。

当時の人は「ただ助かりたい」一心で何とか助かろうと防空壕に走りこんだそうです。B―29の空襲では「外にいても中にいても逃げ場がない」「たった七分の空襲でも七分だと考えられないほど長く感じた。」と語っています。

今まで東大和はそんなに空襲が激しくなかったと勝手に考えていて変電所を見る機会があっても日立航空変電所について考えたこともありませんでしたが、今回「沈黙の証言者」のビデオを鑑賞し、東大和は「戦場」であったこと、その当時の人たちはいつでも死と隣合わせの激戦下になっていたことを知ることができました。これからは、東大和がどんな状況で人々がどんな思いで戦下にいたのか、後の世代にしっかりと伝え、戦争は決してしてはいけないことということ、戦争によりたくさんの大切なものが失われるということ、戦争の恐ろしさを後世の後世にまで伝えていけるよう、私たちが受け継ぎ、しっかりと伝えていきたいと思えました。

平和のために

佐藤 耀大

戦争。それは人の命を奪うとても残酷で悲しいもの。それが今世界で起きている。僕たちがいる日本では、今は起きていないが、僕が生まれるずっと前には日本も戦争をしていた。僕たちが生活しているこの東大和市も昔、敵軍から爆撃を受けていた。

それを示しているのが都立東大和南公園にある変電所だ。そこにはたくさんの銃弾の跡や、窓ガラスの割れ、もう動かない機械などがある。

今回はその爆撃を受けていた方々のお話をDVDで聞きました。

その時思ったことは、昔の中学生や小学生はすごいなと思った。なぜなら、僕と同じぐらいの年代なのに工場で朝から夕方までずっと働いて

たので、僕が働いていたら昼ぐらいでやりたくないなと思うぐらいきついなと思った。

そして東大和市で飛行機などを作っていたことを初めて知りました。飛行機などをつくる人や工場で働いている人のための住居があったことを知り、僕はそれだけ戦争のため、天皇のため、自分が生きるために死ぬ気で働いていてそれのおかげで今、僕たちは昔より安全に暮らせているのかなと思った。

今回のDVDのおかげで昔の東大和市のことも知れたし、二年生の三学期に行く予定の修学旅行のために勉強になったなと思いました。僕は最初は変電所を残して何になるんだと思ったり全然見ないでそのまま通り過ぎたりしていたが、今回の授業のおかげで前よりも、戦争への意識が少し変わったなと感じました

沈黙の証言者を見た感想

澤田 和樹

僕は、小学校の時、校外学習で旧日立航空機株式会社変電所を見学した。その時見た建物は、機銃掃射で空いた穴がたくさんあった。変電所の中には、小さい飛行機の模型があったり、一メートル以上ある爆弾の模型などがあった。特に印象的だったのは二階にあった電気の流れを制御する大きな機械があったことだ。変電所にあった大きな穴を見てコンクリートに穴が開くぐらいの威力のある弾が、人に当たっていたと思っただらすごく怖いなと思った。

映像を見て新しく知ったことは、思ったより旧日立航空機株式会社変電所が大きかった事と、七分間で、八百人中七十八人が爆弾や機銃掃射

で亡くなったことだ。僕は思った、一瞬で何人もの人が死んでしまったことを怖いと思った。

昔と今では、平和になったし、もう戦争は起こしたくないから、戦争を体験した人達から当時の事を聞いたり、映像や写真が残ってるからそう思える。そのために映像などを残しておかなければならないと思った。

沈黙の証言者

柴田 真二郎

僕は、東大和市にうまれて、育つて来て好きな町なので、昔戦争が起きていたということを初めて知った時、すぐくびっくりした。今はこんなにもやさしい町だったのに戦争があつたなんて思つてもいけませんでした。

去年、はじめて行ったことがわからないほど小さいころに変電所に行った。家族とどこかに行く予定だったけどついだという事で変電所に行った。その変電所に行った時、戦争でかべがボロボロに穴があいていました。

少し自分が大きくなった時、初めて変電所の中に入った。

その中は外と同じように、穴があいていました。その穴が、爆弾や機銃掃射であいたことがわかりました。そこで爆弾のおそろしさがあらためてわかった。

この戦争で、十四から十五さいの人が死んでいた。まだまだ若い人達が死んでいくことに悲しいと思った。戦争が終わって少しずつ幸せがやってくるかもしれないのに次々と死んでいった。

今の自分の生活と戦争の時の生活と比べて、今の生活は食事をしっかりと出来てたまにはぜいたくもできるのに戦争の時はぜいたくもできず、そもそもご飯を食べられない人もいて死んでいくことが悲しかったです。なので今、平和な時でもご飯を残さずに戦争の時の人達のことを想い生きていきたいです。

東大和市の歴史に刻まれた空襲の傷跡

白井 晴敬

私は学校で見た沈黙の証言者を見て私が感じたのは、戦争とは残酷であり、慈悲など存在しないのだなと思いました。私は小学校の時から東京東大和市にある南公園に位置する旧日立航空機株式会社変電所には行ったことがあり、毎週土曜日の陸上部での南公園部活ではいつも見慣れていました。記憶があやふやなのですが、確か小学校の校外学習のようなもので行った覚えがあります。小学校で行ったときに解説していただいた覚えがあります。

私はこの作文を書くに至って、もう一回小学校時代に行った旧日立航空機株式会社変電所に行きたいと思い、私の親も興味があったらしくこ

のゴールデンウィーク中に行ってみました。PM二時には旧日立航空機株式会社変電所を解説していただけるちよつとしたイベント的なものがあったので行ってみることにしました。

行ってみると、小さなシアターのようなものがありまして、中でちよつとした映像が見れると聞き、さあ！上映されるぞ！と思って待っているとそこには「沈黙の証言者」の文字が。私は学校で見たやつとは少し違うだろうと思っていました。少し短くなっていただけで内容は変わっていませんでしたが、振り返りできてよかったです。旧日立航空機株式会社変電所は襲撃された当時の姿をそのまま残しているんだなと改めて実感しました。

私は映像や旧日立航空機株式会社変電所を見て、戦争の悲惨さ、慈悲の無さを知り、このような悲劇が現代に起きない、起こさせないという

ことをこれからも後世に受け継いでいき、先人たちが残してくれたこの過去の記録を大切にしていき、先人の受けた悲劇を忘れず、後世に受け渡すことが私たちに渡された使命なのだなと思いました。

数分で亡くなったあの日の人たちへ

鈴木 結子

私たち日本人は、今は戦争がなく、戦争している国と比べれば平和な国かもしれない。しかし、今から七十九年前までは戦争が行われていました。私たちの住む東大和もです。

東大和市の南公園でも戦争があり、最初は通り過ぎるだけでした。そのため、最初の方は防空壕に隠れていたが、しばらくすると、もう自分たちのところには来ないと思い、防空壕に隠れない人が増えました。しかし、その期待を裏切るように二月十七日、空襲が東大和にやってきました。

この日は七十八名もの人が亡くなりました。その時、被害を受けた人

たちは何十分にも感じられたそうですが、実際は六、七分だったそうです。

私たちは、この戦争があり、多くの人がなくなり、被害にあいました。その被害があつたからこそ、私たちは、平和な時代に生きています。だから二度と同じことが起こらないようにしていかないといけないなど感じました。

私たちが繋いでいけること

高橋 幸愛

私は戦争の経験をしていません。紛争地帯で命を脅かされながら生活したことも、安全を求めて他国に避難をしたこともありません。その上、祖父母は戦後に誕生しており、戦争について触れる機会が多くはありませんでした。

このような状況下で、戦争に触れるきっかけとなることが起きました。それは、ロシアとウクライナ間の戦争です。この戦争は、二〇二二年二月二十四日未明から始まり、今もなお戦争は続いています。

この戦争についてのニュースが流れてきたとき、言葉を失いそうになりました。なぜなら、あまりにも戦場が悲惨な状態になっていたからで

す。美しい町並みは跡形もなくなり、皆怯えながら過ごしています。兵士たちは凄惨を極めた戦場で戦鬪を繰り広げているというのです。

戦争によって、大切な人を失った人、隣国に移住することになった人、前線で戦うことになった人、様々な人がいます。こういった人々は戦争さえ起らなければ、毎日怯えながら過ごすこともないでしょう。ましてや、人が何万と亡くなることもなかったでしょう。

そして、このようなことは現在までの戦争にも言えることなのではないでしょうか。私は「いい戦争なんてない、戦争は絶対にはいけない」そう思っています。そのため、戦争を経験した方々の経験談を重んじて、無数の銃弾の痕の残る旧日立航空機株式会社変電所などの数少ない戦争の後が残るものを守り、大切にしていけることで、のちの世代へと繋いでいきたいなと思いました。そして、歴史を継承することによって、

戦争によって亡くなってしまふ人、辛い思いをしてしまふ人など戦争によつて傷つく人が少しでも少なくなればいいなど切実に思いました。

沈黙の証言者を見て

田中 琴乃

私は「沈黙の証言者」を見て本当に確かにこんな出来事があったのだなど改めて実感しました。確かにこの出来事があったのはもともと知っていたけど、実際に体験した人の話はあまり聞いたことがなかったのでそんなことがあったんだな程度でした。今まで旧日立航空機株式会社変電所であった「出来事」しか聞いたことがなかったので、今回変電所自体に詳しく触れることができてよかったです。たとえば変電所になる前は東京ガス電気工場という名前で、変電所で作っていたエンジンや戦闘機などにはあまり関係がなかったことなど、変電所の歴史も知れました。そして「沈黙の証言者」を見て自分たちの地域にも空襲が来るんだな

と驚きました。空襲といえば原爆のイメージが強い広島と長崎が大きかった。なので他の地域ましてや自分の地域にも空襲が来ていたことに衝撃を受けました。昔だったとはいえ自分の地域で空襲が起こっていたことを想像しにくいです。そして実際にその空襲を体験した人の話も聞けてよかったです。東大和に爆撃がくるのは少なかったらしいです。けれど爆撃が少なかったせいで人々は油断し多くの人の命が失われました。私はこの出来事を聞いて、少しの油断で多くの命が落とされる、とても残酷な出来事だったなと思いました。

私は今まで旧日立航空機株式会社変電所で起こった空襲を体験した人の話を聞いたことがなかったです。体験した人が周りにいなかったのと体験した人の話を聞く機会がなかったからです。今回の機会で経験した人がいないと私は思っていたので貴重な話を聞けて良かったです。

沈黙の証言者

谷脇 藍里

今回改めて「沈黙の証言者」を視聴して、被害を受けたのは広島や長崎の方々だけでなく、私たちが住まうような東大和にもあったことを大きく受け止めることができました。

戦争に参加させられる平均年齢が十四〜十八歳であり、自分とあまり大差のない平均年齢だということを知り、とても驚きました。

空襲を受けた場所では火災や被爆で亡くなる人が多いというイメージを持っていたのですが、逃げ込んだ防空壕が爆撃を受け、中にいた人々が生き埋めの状態になってしまうこともあるようで、生き埋めになりかけた経験のある方の話を聞きとても恐ろしいものだと思います。

わずかな時間の中で何十人、何百人もの人が亡くなっていることに、映像を見ながら気づかされました。

一年生で行った校外学習や、今回の映像鑑賞などを通して、今年度行く京都、広島へ生かしていけたらいいなと思いました。

自分が住む町、東大和でもほかの場所と同じように悲惨な出来事があったことを忘れることのないよう、インターネットや地域交流などのたぐさんの人たちが目に出来るような場所で語りついでいきたいです。

自分自身も何度か南公園に立ち寄り、旧日立航空機株式会社変電所のなかを少しだけ見たことがあるのですが、改めて映像を視聴してまた考えもかわったので機会があればもう一度見に行きたいと思いました。

戦争はもういらぬ

中川 紗英

私たちが暮らしている東大和市は空襲や爆撃によって多くの人の命が失われました。自分と同じくらいの年の子供が工場で働いていたり、家族と離れ離れの生活をするのはとても辛いことだと思いました。空襲が起きた時は屋内にいても防空壕の中に入っても決して安全ではないことが分かりました。ですから工場の中は奥のほうまで被害にあった跡がありました。人の少ない地域では空襲が来ても知らせに来ないところもあったと知り、空襲はいつ来るかわからないもので怖いなと思いました。特に空襲を實際に受けた人からの話では「東大和は栄えある土地だったから空襲は来ないと思っていた」などという話があり、そんな

豊かな場所が空襲によって壊されてしまい寂しさを感じました。戦争の悲惨さがよくわかりました。この出来事をしっかりと忘れずに覚えていきたいです。爆撃の後、荒れた土地は綺麗になって戦争の面影はなくなっても東大和変電所だけはそのまま残っていて良かったです。爆撃、空襲があったことを過去のことと認識せず、これからの世代にも同じことをもう二度と起こさないためにも伝えていきたいと思いました。

沈黙の証言者

中村 日菜

私は今回の映像を見て、東大和市が約七十年前まですごく大きな工場だったことを知りました。

今では、地域公園となり戦争のあとがなかったようになりましたが、ゆいいつ残っている変電所は、今、私たちに戦争の怖さを知らせるためにあることを再認識しました。また地域の人たちがどういふ思いで変電所をのこしたいのかわかりました。

空襲の被害者は七十八人でした。でも、空襲の時間は、たったの七分でその七分間ずっと空襲と悲鳴が響いていることを考えると恐怖ではありませんでした。

戦争は、なぜ起こるのか私には疑問です。人と人との思いやりがあれば世界で戦争なんか起こらないとおもうからです。たしかに難しいところもあるかもしれませんが。でも他人をおもいやることで戦争をなくし悲しむ人たちが少しでもへればいいなとおもいます。

私は、東大和市がこんなに被害をうけていることを知り戦争に大ききも小さいもないみんな等しく悲しみ、血を流してきたこのことを少しでも多くの人に知ってほしいとおもいました。また、今起きている戦争を早くおわらせて少しでも悲しむ人たちを減らし平和で誰もが笑っていただける世の中になれるようにしていきたいです。そのために私は、少しでも世の中の平和について学んでいきたいです。

道徳感想文

中村 颯汰

僕は、東大和での戦争のお話の動画を見ての感想はまず、東大和にある変電所は昔、飛行機の日立工場だったことを初めて知りました。そして昭和二十九年二月十七日に日立工場に空襲を受けたことも知りました。その空襲で七十八人が亡くなったことも初めて知りました。その亡くなった人達は、飛行機で撃たれてなくなる人や、建物の中にいた人は煙を吸って亡くなる人もいました。僕は飛行機で撃たれてしまったりするのはすごく怖く感じました。東大和は戦場だったことから一日に何回も警報が出ていたことを初めて知れて良かったです。昔は、十歳から工場で働いていたということが分かり、ぼくはそのころの子供たちは一日

中仕事をしていたなんて大変だと思いました。もう一つびっくりしたことは、東大和が空襲を受ける前、東京の東大和ではない地域に空襲を受けていて東大和には一回も落ちなくて、東大和には落ちないと思い防空壕に入らない人がいたことをものすごく驚きました。僕だったら警報が出たらすぐに防空壕に入ります。そして、昭和二十九年の三月十日に東京大空襲が起きました。十万人の人達が行方不明や命を落とすひとがたくさん出たことを僕は怖いと感じました。

僕は道德の動画を見て、戦争はやっぱり良くないことだともう一回感じました。僕は、世界から戦争が消えてほしいと思いました。今、僕が住んでいる東大和市でも戦争があったなんて、信じられないと感じました。僕は今の日本に生まれて良かったです。

沈黙の証言者を見ての感想

中島 美結

ビデオ「沈黙の証言者」を見て、思ったこと、考えたことを書いてみたいと思います。

まず初めに「沈黙の証言者」の内容についてです。ここ、東大和市で起きた悲惨なこと「東京大空襲」に関わることについて、当時の方のお話や映像などが入っているビデオです。どれも耳を疑うようなことばかりだったのですが、その中でも特に印象に残っていたことをいくつか紹介します。

一つ目は、たった七分間に七十八名が死んだ。ということ。二つ目は、爆弾の重さが一つ二百五十キログラムあり、それが上空何千メートルか

ら降ってきたということ。三つ目は、子供だとわかって尚、撃ち続ける米軍パイロット。についてのこと。この三つです。

どれも聞くだけで恐ろしいのに、それを体験した方々はどれだけ恐ろしかったのか、想像もつきません。一つ目に書いたように、たったの「七分間」で、七十八名もの方々がなくなっただと考えると、本当にぞつとします。

そこで助かった方もたったの「七分間」ですが、その「七分間」がどれだけ怖かったのか、私たちは経験したことがないけれど、絶対にこの出来事を忘れてはならないのだと痛感しました。そして三つ目のことなのですが、「子供だとわかっていても撃ち続ける」本当にひどすぎるなと思いました。でもそんな撃ち続けたパイロットも本当はそんなことしなくかったのではないのかなと、私は思います。

このような出来事がこんなに小さな東大和市内で起こったなんて今でも信じられませんが、「沈黙の証言者」を見るまでこんなことがあった。というのを知らなかつた自分がとても恥ずかしいです。でも知る機会を設けてくださったので、忘れず色々な人に伝えていきたいです。そして、このようなことが二度と起こらないようにしてほしいです。

戦争の感想文

中澤 莉

私は、動画を見て詳しく分かったのは初めてです。今自分が住んでいる近くに戦災変電所を目の前で見るのは何回もあるけれど、動画を見て日付、時間を詳しく聞いたのはこの授業だけで戦災変電所の戦争を体験した人たちからの本当の話を聞いていると東大はこんなに大変なことが起きたとわかりました。もつとすごく大変な戦争もいろいろあったけれど、東大では実際に銃で撃たれた欠けら、壁に空いている穴、使われていた爆弾の大きさ重さ実際のタンスなどが変電所には残っていてすごく大変だったと思います。

私のひいひいおばあちゃんは、戦災変電所戦争のときは、実際低学年

の頃で怖い音がいきなりなってまだ低学年だったからよくわからなかったけどいろんな大人の人に「今すぐ自分の身を隠せ」と言われたと聞いて話を聞いている自分も怖くなって本当に戦争は、実際に体験しているわけじゃないけど話を聞くだけで怖くなりました。

震災変電所のランニングゾーンのほうを向き、斜め右を見ると実際に飛行機みたいな乗り物が来た場所だと高いところの斜めから迫ってくる飛行機みたいな乗り物がありました。

自分たちよりもっと怖かった人もいるし、家族一人でもなくした家族も怖かったと思いました。

これからはもうちよつとでも戦争について、学べたらいいと思いました。

二年生の後半は広島県原爆ドームを見るのでここでも戦争について

聞いてメモを取って証拠を残せられるようにしたいと思います。

あの七分間

成嶋 俊太

僕は昨年平和新聞で旧日立航空機変電所のことを新聞にまとめました。事前から日立航空機のことについて調べていたためか、「沈黙の証言者」の内容がよく理解できたと同時に空襲の本当の恐ろしさを知りました。日立航空機立川工場に空襲がきてその日立川工場だけで七分の間に七十八人の犠牲者を出しました。たったの七分でこれほどの命が失われたことが正直実感がわきませんでした。動画で出演していた方々はその当時はまだ十四歳から十五歳ほどで僕たちとあまり年が変わらないときにあの経験をしていて、時がたったからか動画では穏やかにインタビューに答えていましたが、あの経験はあの方々は人生においてあの事

を忘れるときはひと時もないだろうと思います。まだ若いころに友人や家族などを失ってしまっても前を向いて生きていけている方々をとてもすごいと思います。僕も人生の中でたくさんつらいことや楽しいことを経験しても、あの方々のように前を向いて突き進んでいけたらいいなと思います。

僕はこの先いろいろな経験をするだろうけれど、どんな時も自分よりもつらい思いをしている人がたくさんいる、自分は恵まれているということをはひと時も忘れないで生きていきたいです。このタイミングでこの空襲のことを知れて本当に良かったです。この知識を活用して生活していきたいです。

平和の大切さ

新倉 加奈

私はこの映像を見てまず、長い間に変電所だけでなく周りの建物がどんどんなくなっていくてしまうことにとっても恐怖を感じました。当時の人の気持ちを考えると胸がとても苦しくなります。小学校の頃にこの変電所を見学しましたが、映像のように建物の中の傷がとても大きいことが印象的でした。航空機のエンジンを生産していたので狙われる可能性はとても高かったと思います。それでもここで働く人たちの強さ、十四歳の子もいたというのにとってもすごいと思いました。建物だけでなく変電設備もしっかり残っていたことにも驚きました。防空壕に入れと言われ仕方なく入ったと言っていた高齢者の方も真面目に入っていたひと

が亡くなってしまっていたときいて防空壕にいるから安全、というわけではないことを知りました。どこにいても命を落とす可能性がある状況と考えるととっても疲れるだろうしものすごい恐怖感だと思います。現時点で日本は戦争をしていないけど、起きていないことではないし、いつ自分のところが戦争状態になるのかわからないことが私はとても怖いんです。でもそんな戦争の怖さを今後の人たちに伝えるためにもこのような建物を残しておくのはとてもいいことだと思います。二度とこの場所が戦場にならないようにいつまでもこの平和が続いてほしいと強く願う人が増えて、私たちが守っていかなければならないと思いました。

沈黙の証言者

野中 樹

沈黙の証言者を聞いてやはり戦争をしてはいけないなと思いました。今まで色々な戦争の話を聞いていましたが、やはり戦争を体験した人の話は特に現実味があり戦争は怖いなと思いました。家の近くにある変電所もれっきとした戦争を忘れないようにするための建造物なんだな、と思いました。戦争を忘れないようにするため、戦争の歴史や戦争で被害を受けた建造物は壊して戦争の思いを忘れないようにしなければならぬなと思いました。戦争のことは、日本だけでなく全世界の人々と戦争の問題について考えないといけないなと思いました。ウクライナとロシアが今、戦争をしています。これはウクライナやロシアの問題では

なく、世界の問題なのではないかと思えます。日本は世界で初めて核ミサイルを撃ち込まれた国でもあるため日本はこれ以上絶対に戦争をしてはいけないと思えました。小学生のころ、戦争の話をしに来てくれた人がいました。ですが、小学生だったため、あまり意味が分からないことが多かったのですが、中学生になり戦争のいろいろな事を知ったうえで改めて戦争のことを聞くと、いろいろな事が分かり、戦争の残酷さや、戦争の意味、戦争の重さなどが分かりました。戦争に苦しんだ人がほとんど消えてしまうと、戦争の怖さなどを、忘れて行ってしまうものだと思いますが、今回の沈黙の証言者や小学校中学校などでの教科書や授業でやっていくことで戦争の怖さなどを受け継げるのではないかと思えました。

戦争のことを知って

深谷 美咲

沈黙の証言者を見て私は戦争でおこったことやその時の人の気持ち
を聞いてたくさんのことを思いました。

まず、最初らへんは東大和市は狙われてなくたくさんの人が平気だろ
うと思っていたそうですが、昭和二〇年に狙ってきて何分間だけで百十
七人の人がなくなつて怖いなと感じました。

そして、昔は働き始めるのが早くて十四歳からで、驚きました。私た
ちと近い年ぐらいの人がたくさん働いていてとても大変だなと思いま
した。その中でもずっと戦争は起こっていて周りの友達とかが死んでい
ってしまうということを聞いて絶対悲しいなつて思いましたし、すごく

胸が締め付けられるような気がしました。

あとは、いきなり空襲警報が鳴り防空壕に逃げて場所が空いてなくていつもとは違う場所に入り過ぎしていたそうですが、その入ろうとしていた防空壕が破壊されてしまい、そこにいた人は亡くなってしまってもしもそこに入っていたらやばかったということをお話していて防空壕に入っているも絶対に安全というわけではないということが分かりもつと戦争が怖くなりました。

あらためて思うと戦争ではたくさんの人たちが亡くなって怖い思いをしていいことなんて一つもないんだなと感じました。これからこういうことが繰り返されないと願いたいです。

沈黙者の証言者

深澤 優風

大空襲があつた約七十年前。この動画を見るまでは大空襲があつたことさえ知らなかつたです。ただ、実際経験した方の話を聞き、少しは知れたかなと思ひました。私たちが住んでいる東大和にある変電所。階段や壁に銃弾の跡。中から外が見えるくらい貫通している箇所もあり、当時どれだけの銃弾が打たれたか見ただけでわかるような跡でした。

数えきれない警報が鳴り続く中、逃げ回つても、逃げ回つても打たれる苦しさ。二百五十kgもある銃弾を打ち続け、一日で七十八人も死者がでるほど、大きい空襲が続くことにすごく驚いたし怖いなつて思ひました。

今では絶対あり得ないけど、もしも急な空襲が来ても、ただ怯えるだけで何もできないけど、当時の大人の方のように小さい子を助けたりできるようになりたいなって思いました。

私たちが住んでいる東大和に変電所が残っていること、奇跡に思っています。他のところでは味わえない、当時の辛さ、苦しさ、規模の大きさ、完全完璧にわかるわけではないけど、少しでも、学ぶことができる場所があるからこそ、大空襲のことをもっと知り、修学旅行では、戦争のこと、もっと知っていききたいです。この、大空襲の苦しさなど、忘れないようにしていきたいです。そして、この出来事をもっと知り、次へ、次へと伝えていけるくらいになりたいです。

戦場の悲劇

福原 煌大

この平和な東大和の町が約七十年前には、地獄のような場所だったことを知りました。

まず私たちが毎週土曜日に使用している、南公園あたりは東京ドーム約四十個分の面積を持つ戦闘機などを作る工場があり、一九二〇年あたりには戦火になっていたことを知りました。

また戦争の被害を受けた人のはなしや、日記などの話を聞いて戦場は私たちが想像できないような、悲惨な出来事が起きていた事を知ることができました。その話では、アメリカ軍機による爆撃や、機関銃などによって目の前で知り合いが殺され、爆撃によって防空壕がつぶれて中の

人が窒息死するなどの悲惨な出来事が起きたことも知る事ができました。日記には戦場がどのような景色が広がっていたかが書いてありました。戦場は火の海と書いてあったので、私はこのような環境で、人が生き残ることができるのかと思いました。

ほかにも私たちと同じくらいの年の子供が約八百人も働いていると知ってとても驚きました。私がこの時代の子供ならそんなリスクがある仕事には就きたくないです。今の日本が戦争に参加していなくてよかったですと思いました。

最後に、私は今回の学習を受けて思ったことは今この瞬間もこのような地獄を味わっている人がこの世界にはいるということです。二〇二二年にロシアによるウクライナ侵攻が始まってから、二年以上経過しておりますが、いまだに終戦の気配は見えず終戦どころか戦闘は激化してお

ります。またウクライナの中で昔の日本人のように空襲の恐怖にさらされ、明日生きていられるかわからない人がたくさんいます。私はこのような状況にさらされている人がいるのは許せません。この世の中は互いが助け合うような平和な世界になってほしいです。そのためにも、私たち日本人は戦争の恐ろしさなどを伝えなければいけないと思いました。

沈黙の証言者を見て

福島 愛奈

私は変電所の空襲の話を見て戦争の悲惨さと残酷さを再認識しました。

そしていままで空襲の話は何度か授業などで知ることがありますが初めて知ることもありました。それは空襲によって亡くなった人の死因についてです。空襲で亡くなる人は爆弾の爆発が原因で亡くなってしまうのかと思っていたのですが、爆弾の爆発で崩れたものに押しつぶされて窒息してしまい亡くなってしまおうということを知りました。他にも東大和市はあまり空襲がなかったので空襲警報が発令されても防空壕に入らない人もいたということが驚きました。

それから戦争中の日記も印象に残りました。防空壕に逃げて近くに爆弾が落ちてとても大きな爆発音と揺れが起こったという話では実際の時間よりも長く感じたことなど具体的に聞いているだけで恐ろしさが伝わってきました。さらに爆弾の爆発で死ぬこと以前に爆弾が自分に当たるだけで約二五〇キログラムもの重さのものが上空から落ちてくることも恐ろしいと思いました。

いままで何度も戦争について学習することがありましたが、知らないことがたくさんありとても勉強になりました。そして二度と繰り返さないため次の世代へ伝えていくことなどの自分出来ることからしていき、近くに戦争のことについて知ることが出来る変電所があることに感謝しなければいけないとおもいました。

変電所と僕

藤井 高道

僕は東大和市に変電所があることは以前から知っていました。ですがこんなに痛々しい状態だとは知りませんでした。銃で空いた穴やコンクリートの鉄筋が剥き出しの壁など当時のことを考えるととても悲惨だったということが分かります。この変電所は一つですが、当時はこのような家や工場が多くあったと考えるととても戦争はひどいものだったのだなと感じます。このようなところに人間がいたと思うと、悲しく思うのと同時に僕には想像もつかないほどの出来事があったのだと感じます。戦争はとても悲しくつらいものだとは知っていたのですが、この東大和の変電所のことを考えると生々しくそれが伝わってきます。戦争

は身近なもので、戦争があつてはならないもので、もうこれ以上したくないと思ひました。これからの時代は戦争のつらさや悲しさを次の世代に伝え続けたいといけなひと思ひます。また僕たちが大人になつても戦争は起こしてはいけないのだと改めて思ひました。僕はこの世界から戦争というものを無くしたいと思ひました。戦争をなくすためには、身近なことから始めたいと思ひます。まずは小さな争いをしない、させないことが大切だと思ひます。そして戦争のつらさや悲しさを伝えていきたいと思ひます。戦争のことについてよく知ること大切だと思ひます。戦争は思ひ出したくもない辛いものですが知る必要があります。起きてしまつたことを未来に活かして一生しないようにしていきたいです。伝えていくために変電所はいつになつても残してほしいと思ひます。変電所ですらでも戦争を身近に感じてほしいと思ひました。世界平和になつ

てほしいということを実現するために十年後、二十年後、三十年後と後世に語り継いでいきたいと思えます。

沈黙の証言者見た感想

保科 絆

僕はこの映像を見て戦争の残酷さを改めて知りました。

狙われたのはたったの七分間でしたがその七分間で多くの人々が命を落としました。

その時を覚えている人達の話聞いて自分はすごく胸が痛かったです。

自分の知り合いが目の前で亡くなっていくのを見るのはすごく辛いことです。その日に初めて爆弾を落とされてしまいました。

みんな油断していたらしく七十八人も人が亡くなったそうです。すごく悲しいですし心が痛かったです。

そのころは会社に約一万人の人が働いていたそうです。

しかし、その中でも若い人が働いていることが多かったそうです。

空襲が始まり疎開もありました。その疎開先でもいろいろなものを作っていたそうです。若い人が働いていることを聞いて初めはびっくりしましたが、戦争状態が厳しかったので若い人が働いているのも納得できました。

そのため、若い時に働くことはすごく怖いこともあるし分からないこともあるのにこの時の人たちはすごいなと思っただけで、そこまでしないといけない状態になってしまっている戦争を許せないです。

戦争は絶対に起こしてはいけないものだと思いましたが。

僕はその戦争の恐ろしさがすごくわかるものがある街に生まれてよかったです。

変電所がすぐ近くにありますが。小学校の時にも変電所にはいきました。そのときにも戦争の恐ろしさがわかっていましたが、この話を見て小学生の時よりも戦争の恐ろしさをすごく感じました。

自分はこの東大和に生まれたことで戦争のこわさを知ることができ
るためすごくよかったです。

沈黙の証言者

松澤 凌大

第二次世界大戦を体験した日本は多くの人々を失ってきました。自分たちの町東大和も大きな被害をくらいました。そんな出来事を伝えていきたいと思います。

東大和には何回もアメリカに攻められていてその中でも一番被害が大きかったのは、昭和二〇年二月十七日の十時三十五分から約七分間の空襲です。この時の被害は日立航空機立川工場だけで死者七十八人そして工場などにも大きな損害を受けた。空襲を経験した人によるとこの七分間はとても長く感じたと言っていました。

東大和には第二次世界大戦の悲惨な出来事が分かる旧日立航空機立

川工場変電所があります。中には銃撃の跡や爆発の跡などが残って東大和市指定文化財に登録されています。あと東大和市立郷土博物館にも出来事の資料が置いてあります。

感想 戦争というものは二度としてはいけないなと思った。なぜなら戦争をしても何も得ることがないから。自分は変電所に行ったことがないので行って戦争の悲惨さを学びに行きたいと思った。今も世界中のどこかで戦争をしていると思うと悲しくなってくる。戦争を体験している人が少なくなってきたるので自分から戦争をしてはいけないと未来の人たちに教えていきたいなと思った。

戦争の辛さをみんなに

溝口 翔楽

僕はまず、「沈黙の証言者」を見て戦争や建物に爆弾を落とすなどよくないなと思いました。次に僕が思ったことは原爆ドームが広島にあつて他にも色んな所に戦争の跡があり多くの戦争の跡などを身近でみる事ができないけれどいろんな人に戦争の辛さ、悲しみを伝えるために自分たちの近くでは旧日立航空機立川工場変電所が今でもずっと残されていることがすごいなと思いました。

自分は小学生の時に旧日立航空機立川工場変電所にいきました。変電所の周りは爆弾が落とされた跡、銃で撃たれた跡などがはっきりとわかりました。変電所の中にも入りました中でも階段がボロボロになってい

たり中からも銃で撃たれた跡が残されており戦争でやられた跡がすぐありました。変電所の中では当時の戦争で亡くなってしまった人の名前全員が書かれていました。当時の写真や物などを詳しく見ることができました。

「沈黙の証言者」で多くの人たちが教えてくれた当時の戦争の話を聞いて話をしてくれた人の中には家族が亡くなってしまったなど辛いことなどがあつたかもしれないけれど変電所みたいに当時の戦争の辛さをみんなに知ってもらうために話をしている事がすごいなと思った。こうやって色んな人が色んな事を教えていって戦争の辛さ、悲しみがみんなに伝わっているのだなと思いました。

今回は自分が教えてもらったのでこれからは自分が変電所や戦争の話を色んな人たちに伝えていって世界でもう戦争をしない平和な世界

をみんなで作りたいなと思いました。

沈黙の証言者

宮本 信

私は東大和の昔を知り、思ったことがあります。東大和南公園が昔工場だったことは少し知っていましたが、あんなに広くてみんな楽しく暮らしているとは思っていませんでした。私はみんなピリピリして仲が悪く、狭いところだと思っていました。そして少し気になったのは、ここで働いている人の平均年齢が十五歳から十七歳と知って、働いている人達が可哀そうだと思いました。そして戦時中だった時のものがここ東大和にあるのはとても珍しいことなので次の世代などに戦争はよくない、戦争はいいことがないということを見せしめにしたいと思います。ぜひ次の世代また次の世代と残していつてほしいと思います。そしてたった

七分だけで七十八名のいのちを奪ったということをととても悲しく思います。

似たようなことが立川でもあったと思うととてもかなしいと思います。そしてそこにいた人で生き残っていた人たちはとても運がよかったということとは、それほど多くの襲撃があったことが頭に浮かびます。いつもあったものがなかったりしたらしいのでそれは悲しいと思います。そして真面目に防空壕に入っていた人の命までも奪うなんて、どこにいたら助かるのか私ならわからなくなると思います。そして初めて経験することが多くあったらしいです。

一つは、骨をツボに入れる死体の山を見ることです。いまの人は多分たえられないと私は思います。やはり感じたのは戦争は何があってもだめだということです。

沈黙の証言者感想文

森山 達貴

僕は、今回の授業で東大和市が戦争で狙われていた事を初めて知りました。

都立東大和南公園にある旧日立航空機株式会社変電所は小学生の頃に見学に行ったことがあったけれど、あまり戦争のことをよく知れませんでした。しかし、今回の授業で東大和でも戦争があつて何人もの人が亡くなったし、自分たちと同じような学生も犠牲になったことを知らなかったのです、この戦争の恐ろしさをまだ知らない人たちに教えて戦争は無意味だということを後輩たちに教えて二度と戦争をやらない国にし

たいです。

この映像を見てまだ今から数十年前なのに今では考えられないことがいっぱいあったので、図書館や旧日立航空機株式会社変電所などで戦争についてもっと知りたいです。僕はもともと戦争はほかの国の話だと思っていたけどすごく身近なところでも戦争で被害を受けていることを知りました。

少し生まれる時代が違ければ自分ももしかしたら戦争に巻き込まれていたかもしれないので、こんな無意味な戦争をもう二度と起こさないようにしたいです。

まだ世界では戦争をしている国がたくさんあり、毎日のように人がなくなってしまうのでいち早く戦争をやめてほしいです。日本は世界で唯一原爆を落とされた国でもあるので世界中に戦争の恐ろしさや

核兵器のこわさを教えていききたいです。

東大和市の戦争などについて

山口 秀幸

今回の学習では戦争について学びました。ですが、今までは全体的に見た戦争でしたが今回は自分の住んでいる地域、東大和市で起きたことについてです。

南公園にある傷だらけの施設、私は初めてそれは見たときは一体何なのかわかりませんでした。「なぜこんなものがあるのか？」そう疑問を持っていました。ですが、今回の学習でその施設は戦争の残酷さと、平和の大切さを忘れないための大事な施設だと知りました。

あの建物は戦時に使用されていた建物で、飛行機などに使われる電気を作っていたそうです。そして戦時には空襲などが多く様々な地域が

その被害にあっていました。東大和市もその空襲の被害にあいました。そこでこの建物も空襲の被害を受けました。この施設では若い人が多く働いており、この空襲で、働いていた多くの若者が命を落としました。

この施設はこうして空襲にあった施設なのです。私は今回このようなことを学んで驚きました。普通に過ごしている中見ていた施設がこのような被害を受け、多くの人が亡くなった施設だったことに、ではなぜこの施設を残す必要があったのか自分なりに改めて考えてみました。そして結論としては先ほどの文章にもあったように、『戦争の残酷さ』そして『平和の大切さ』を忘れないための施設だと思いました。

私たちは戦争をしていた時には生まれていないので、戦争がどんなものだったかというのには記録などでしか確認できません。ですがこのように建物として残しておくことで、みんなが戦争とはどんなものだったか、

それを記録ではなく、建物として残すことができ大事なものだと思いま
した。

私もこうして学んだ戦争について、これからも忘れずにしていきたい
と思いました。

戦争の恐ろしさ

山本 真士

かつての東京都東大和市は、のどかな農村地帯でした。ですが、太平洋戦争の激化に伴い、この平和な町は戦火の脅威にさらされることになります。一九四五年四月十五日、米軍のB-29爆撃機が東大和市を襲いました。約二〇〇もの爆撃機があり、数万発もの焼夷弾が降り注ぎました。無差別爆撃により、わずか四十分で町の大部分が焼け野原になりました。そして、この爆撃により多くの尊い命が失われました。空襲の規模はすぐでかく犠牲者の数は正確にはわかっていません。町の人口は、約一万二千人でしたから、その四%以上が犠牲になりました。終戦後、復興に力を入れ、現在では緑豊かな街へと変貌をつけています。現

在は、旧大和神社の跡地には「空襲慰霊碑」が建立されています。空襲から長い月日がたった今も、空襲での教訓を忘れずに平和の大切さを訴え続けています。町制執行五〇周年記念事業として製作された「大和空襲の記録」では、当時の人々の証言や写真を集め空襲の惨禍を記録しています。毎年四月十五日には、空襲慰霊祭が行われ、町民や遺族が集まって犠牲者を悼みます。また、町では「平和学習」プログラムを実施し、子供たちに戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていきます。東大和市の空襲は、戦争の無慈悲さと平和の尊さを教えてくれました。東大和市では、変電所や昔の人が残してくれた資料や写真などで戦争の悲惨さを教えてくれているのだなと思いました。私は、空襲で犠牲になった人の分まで懸命に生きたいと思いました。

「沈黙の証言者」感想

山名 亜美

沈黙の証言者の映像を見て、私は戦争とは早くこの地球上から消えるべき物なのだと思います。

なぜ、私が戦争を地球から消えるべき物と言っているのかというと、たくさんの人が不自然な死に方をし、罪の無い人が殺されるからです。

私は、どうして東大和南公園に不自然な建物があつて、なぜあんなにもボロボロなのかなんて考えたこともなく、まさか東大和市でも戦争があつたなんて知りもしませんでした。

たった七分間で七十八人の人が亡くなった事や、戦争で生き残った荒幡（あらはた）カネさんが語った悲劇、このことを聞いて私は、戦争は

怖い物なのだ」と再認識すると同時に、今の日本は戦争をしておらず、秩序やルールを重んじる人が多くて本当に、今の時代に生まれて本当に良かったと思いました。

カネさんとヨネさんが毎日変電所まで野道を歩いて行き、午前八時から午後四時半まで働いて、毎日使命感を持って仕事をしていたと聞き、「そんな生活を強いられていて、不満を持たなかったのかな？」と考え、聞いてみると、戦争に勝つまでは何も言わないのが当たり前だったと聞き、戦時中生きていた人々は本当につらい生活を送っていただろうに、泣き言の一つも言えないのはとてもつらい事だったのだろうなと思いました。

今の生活は決して当たり前前に在るものではないという事を改めて認識しました。

戦場だった町で

吉田 司

私は「沈黙の証言者」を見て旧日立航空変電所しか東大和の戦争を記録するものを知らず被害を軽くみていましたが、想像を超えた恐ろしく、過酷な戦場で、悲しい過去があつたことを知りました。戦争中は常に生死をかけており空襲の恐怖に耐え、常に飢えていると思つていましたが、二月十七日の空襲があるまでは爆撃がほとんどなく、平和で豊かな場所であつたことを知り、さらに今では変電所しかない立川工場も五万七千五百平方メートルもあり、さらには学校、病院さらには映画館もあつたらしく、順風満帆な生活を送っていました。しかし、二月十七日今まで爆撃がなかつた東大和であつたが、アメリカ軍が立川工場を爆撃し、空

襲に慣れない人々は逃げ遅れ、十四〜十五歳の子供たちも含む百十二名の方が亡くなった。

命からがら逃げ伸びた人の証言によると「防空壕の中は狭く、時折見える閃光と爆破の音、爆撃機の不気味なエンジン音が聞こえ、すべてが壊れるかと思った。」と語っており、私は小さいころ、飛行機のエンジンの音が苦手だったが、戦争中はその飛行機の音が何倍も恐ろしかったのが計り知れません。

私はこのビデオを見る前、東大和は戦争の時も大した被害を負っていないと思っていました。これを見てからは東大和も被害を受けており、戦争の悲しみを色濃く受けていることがわかりました。失われた命は帰ってきませんが、これからさらに減らされないように精一杯平和を守っていきたいと思います。

未来へ残す証言

吉田 麻衣

私は小学生の時旧日立航空機立川工場変電所に訪れる機会を頂き間近で建物の歴史、銃撃によって破損した箇所などほかにも戦争にちなんだ展示物も拝見することができました。建物がなぜこのようなことになってしまったのか、ここは一体どのような場所だったのかたくさん新しい知識を学べることができましたが、今日拝見した動画ではまた違う感情を抱くことができました。実際に戦争を体験した方々のお話を聞き、私が想像している以上の残酷なことが起きてしまったことを改めて認識することができました。たった七分もの攻撃で百人以上の方々が亡くなってしまったこと。亡くなってしまった方々一人一人に必ず家族

や大切な人がいたということ。実際の戦争を体験することは絶対にできませんが、お話を聞いているだけでなぜにも悪いことをしていない善良な人々が死ななければいけなかったのか本当にわかりません。家族・大切に思っていた人が急に目の前からいなくなってしまった方々の気持ちは凄まじいほど悲しくて寂しく、戦争への怒りが大きかったと思いますがそれでも、そんな心境の中でも証言をしてくださった方々のおかげで今私たちが当たり前のように思えている「戦争は残酷で誰も喜ぶ人はいない」ということ。本当に大切なことだし私たちも同じ過ちを二度と犯さないためにも後世へと伝えていく必要があることを今回改めて強く感じました。これから長い人生たくさんのことを経験して生きていくことになりましたが、今回の学習を得て人の命の重さを身に染みて実感することができました。

沈黙の証言者

吉澤 すばる

「沈黙の証言者」を見て思ったことは、本当に戦争はやってはいけな
いことだと改めて考えなおしました。私は戦争を経験していないから、
戦争の被害が今でも残されている「発電所」や「原爆ドーム」があつて
本当にあつたのだと思いました。私は、一回だけ「発電所」に入ったこ
とがあつて、その建物の中は穴がいつぱいありました。私は、戦争を本
当にしていたことを見たことがないからあまり現実味がなかったけど、
残されていた「発電所」や「原爆ドーム」を見てすごく実感させられま
した。沈黙の証言者で語ってくれた人々が話してくれたけど、「ずっと
空襲警報がなっていた」ことや、「七分間で七十八人が亡くなった」こ

とが七十年前に本当にあつたのだと思うとすごく怖いと思いました。戦争は、本当にやってはいけないことで、戦争をしても誰も幸せになりません。これまでに起こった戦争も同じでそこにあつた命が一瞬にして奪われる、そんなことは絶対に起こってはいけません。そして、この戦争が起きた出来事を、絶対に忘れてはいけません。また忘れると、同じ過ちを犯してしまうからです。だから私たちは、戦争のことを伝えていかないといけないと思いました。

沈黙の証言者

米山 恭右

自分は、このお話を聞いてまず最初にこんなに身近なところでも、太平洋戦争による死者を多く出した場所があるということに気付かされました。特に南公園にある旧日立航空機立川工場変電所では多大なる被害を被ることになったので、機銃掃射による弾の跡や爆弾の跡が見ることができません。私が所属している陸上部では毎週南公園に行くため、結構な頻度で変電所を見ます。しかし、いつ見てもその変電所はとても無残なもので、怖いのです。そして私はこの工場では太平洋戦争中には自分たちとおなじ世代の人が多く動員されていたという事実にも驚きました。昔に生まれていたら生徒は学生なのにもかかわらず働かされてしま

い、大変なことになると思いました。昔は空襲警報が鳴ったら防空壕に避難することが一般的でしたが、最初のほうは空襲警報が鳴っても攻撃がなく、市民の危機感は薄まっていたことで、大勢の死者を出したというのがとても怖いと思いました。戦争はいつ攻撃されるかわからないというのが、恐ろしいなと思いました。そして、防空壕の中に入っているのも攻撃をされるという話を聞いて、戦争中はいつでも安心できないということに気付かされました。この戦争では、多くの人が兵力として利用され、たくさんの命が奪われました。そんなことが七十九年前まで身近なところで続いていたという事実は風化させず、今でもロシアによるウクライナ侵攻や、ガザ地区からのイスラエル攻撃などたくさんの戦争や紛争が起きていて、それらを止めるためにも、次世代へと語り継いでいくことが重要だと思いました。

沈黙の証言者

渡部 雄琉

私は沈黙の証言者を初めて見ました。体験したことのない出来事です
が、まるで今自分がそこにいるような感覚になりました。

特にこのなかで印象に残った一番の部分は自分たちの町、東大和市が
戦場になっていたということ。東京も何度か爆撃されたことは聞い
たことがありましたが、変電所が物語っているくらい悲惨だとは知りま
せんでした。

そしてこの辺りには航空機の製造工場が、かたまっていてより大切な
場所で、爆撃されやすかったと思いました。

ですが、同時になぜ東大和市に大切な工場が集まっていたのか疑問に

感じました。

インタビューを受けていた人たちが言っていた内容にとっても関心を覚えました。とくに爆撃の悲惨さは鳥肌が立つほど、なまなましい現実を突きつけられたような感覚がしました。目の前の爆弾が爆発したあとの土煙の上り方や耳がおかしくなる様子は、とても心がえぐられるような感覚になりました。

最後に、改めて戦争は悲惨なものだと思いました。今も世界の他の国では戦争をしていて、自分の国のことではないですが、悲しいです。現場で実際に見たことではないですがテレビや記事で流れている内容は病院がミサイルで攻撃されていたり、ドローンで攻撃されているところを見てみると、平和について考えていても、こんなにも現実是非情なのかと思います。

はやく戦争をやめて仲良くしてほしいとおもっています。

東大和市平和都市宣言

平成二年十月一日 宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

東京都東大和市

東大和市戦争体験映像記録

「沈黙の証言者」 ～ 私たちのまちは戦場だった ～

東大和市では、戦後七十年の節目の年に、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていた方々の戦争体験談、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録（DVD作品）を制作しました。

6人の戦争体験者の生々しい証言と貴重な資料をもとに、変電所の歴史や東大和市の戦争の記憶をたどります。

※本作品のDVD（48分）を市内図書館、市役所生涯学習課で貸し出しています。
※ダイジェスト版（12分）が、インターネットで視聴できます。

YouTube「東大和市公式動画チャンネル」にアクセスするか、左記「QRコード」からご覧ください。

QRコード



戦後70年 東大和市 戦争体験映像記録

沈黙の証言者

～私たちのまちは戦場だった～



戦災建造物
旧日立航空機株式会社変電所
(東大和市指定文化財)

 東大和市



令和六年度 平和文集

「いま、語り継ぎたいこと」

～戦争と平和～

令和六年八月発行

編集・発行 東大和市 教育部 生涯学習課

印刷 有限会社サンプロセス

恒久平和を願って



東大和市平和月間
シンボルマーク